

年報

NO.17

昭和61年度
佐賀県立博物館
佐賀県立美術館



佐賀県立博物館（左）



佐賀県立美術館（右）

目 次

〔佐賀県立博物館〕

博物館の沿革	5
博物館日誌	5
規模および施設・組織	6
職員名簿・人事異動	7
昭和61年度歳出予算	7
事業の実施状況	8
1. 常設展	8
2. 常設特別展	12
3. 新収蔵品展	15
4. その他の企画展	16
5. 観覧状況調べ	16
6. 普及活動	18
7. 資料調査	19
資料の概要	23
1. 購入資料	23
2. 寄贈資料	23
3. 寄託資料	24
4. 資料の貸出状況	24
5. 購入・寄贈図書	25
茶室「清恵庵」の管理と運営の概況	34

〔佐賀県立美術館〕

美術館の沿革	35
美術館日誌	35
規模および施設	36
昭和61年度歳出予算	36
事業の実施状況	37
1. 常設展	37
2. 新収蔵品展	38
3. 企画展	39
4. その他の企画展	42
5. 観覧状況調べ	44
6. 普及活動	44
7. 資料調査	45
8. ホール・画廊・研修室催しもの	46
資料の概要	47
1. 購入資料	47
2. 寄贈資料	47
3. 管理換えによる受入資料	49
4. 資料の貸出状況	49
佐賀県博物館及び美術館協議会	50
昭和62年度職員名簿	51
案内図	52

はじめに

このたび、昭和61年度の博物館・美術館の事業概要をとりまとめました。昭和45年に博物館、昭和58年に美術館が発足し、それぞれ16年目、3年目にあたる年度でしたが、佐賀県民をはじめとする御利用者のお蔭で着実な歩みを続けております。

さて、昭和61年度の博物館の事業は、常設展では、「佐賀県の歴史と文化」をテーマに自然と風土を背景に郷土の人々がどのように生活し、文化を育ててきたかを自然史・考古・歴史・美術・工芸・民俗の分野に分け、貴重な原資料を中心に系統的な展示を行いました。また、常設展を3期に分け、展示の画一化を防ぐ試みも行ってまいりました。

なお、企画展においては、昭和62年度の全国植樹祭に関連しての大型企画展「森林と文化展」の準備の作業のため、当年度の博物館主催の企画展は行いませんでしたが、これを補うために、常設特別展「古川松根展」を開催し、殉忠の人として知られる松根の和歌・絵画・金工・漆工・書など文人としての側面を紹介し好評でした。

外部との連携企画展では、第36回「佐賀県児童生徒理科作品展」は高・中・小学生の自然科学分野での創造性と研究意欲を高める役割を果しました。「よみがえれ佐賀展」は佐賀の近世の医学・佐賀城などをテーマに佐賀城内での食事の献立など楽しい企画で多数の観覧者がありました。

美術館は、近代の美術・工芸の分野で佐賀県が誇れる百武兼行・久米桂一郎・岡田三郎助などの絵画作品、古賀忠雄の彫塑、中里無庵などの陶磁器などを展示し、また、海のイメージとして、海に関係ある作品だけでの展示の工夫も試みました。

企画展は「北島浅一・御厨純一展」を開き大正～昭和初期の佐賀県美術史にかかることのできない二人の画家の紹介を行いました。

また、外部との連携企画展では「アジア現代美術展」「浮世絵名作展」「佐賀美術協会展」「書作家協会展」「佐賀県美術展」「佐賀県高等学校芸術祭美術・書道展」「学童美術展」などの企画展が並んで盛況でした。とりわけ、MOA美術館所蔵の浮世絵展は入場者3万人近く美術館開館以来の記録となりました。

なお、新しく所蔵された資料は長谷川雪旦「農耕図屏風」・岡田三郎助「矢調べ」などの名品の購入をはじめ、古賀精里の画像をはじめ多くの古賀家資料、砲術関係の牟田家資料などの貴重な資料の御寄贈が多く一段と収蔵資料が充実いたしました。

さらに附属の美術館ホール・画廊・研修室・茶室（清恵庵）の利用も一段と増加しております。

これも佐賀県民をはじめとする御利用者の御理解と温かい御支援によるものと感謝申し上げます。今後は博物館・美術館ともに資料の充実、研究体制の強化、教育普及活動の活発化に努め、展覧会を充実して親しまれる館運営に努力いたしますので、一層の御指導と御支援をお願いいたします。

昭和62年9月1日

佐賀県立博物館長
佐賀県立美術館長

大塚正道

昭和61年度

佐賀県立博物館

博物館の沿革

- 昭和26年 4月 1日 佐賀県文化館設置条例制定、佐賀県文化館が設置される。
- 昭和35年 4月 1日 佐賀県文化館設置条例を博物館登録のため改正。博物館法第10条に基づき佐賀県文化館を博物館として登録する。
- 昭和36年、新博物館建設の気運が高まり、41年度に調査費計上。
- 明治百年記念事業として県立博物館を建設することになり、佐賀大学教育学部跡を敷地に選定、昭和43年度に設計を委託し建設計画に着手し、昭和43年度から昭和45年度にわたる継続事業として建設することとなる。
- 昭和44年 1月21日 佐賀県博物館建設整備委員会を設置。
- 昭和45年 3月31日 佐賀県文化館設置条例廃止。
- 昭和45年 4月 1日 佐賀県立博物館設置条例公布。佐賀県立博物館協議会条例公布。佐賀県教育庁博物館開設準備事務局設置。
- 昭和45年 7月 1日 佐賀県立博物館完工。佐賀県立博物館設置条例施行。博物館開設準備事務局廃止。
- 博物館職員の発令、館長以下18名。佐賀県立博物館協議会条例施行。
- 昭和45年 7月16日 佐賀県立博物館協議会委員を任命。
- 昭和45年10月14日 佐賀県立博物館開館記念式典挙行。
- 昭和47年 3月 4日 鉄器減圧樹脂含浸装置を研究室に設置。
- 昭和48年10月10日 茶室「清恵庵」を、市村清氏のご遺志により市村幸恵夫人から寄贈を受ける。
- 茶室落成式
- 昭和50年 9月20日 古賀忠雄作「岬の男」(ブロンズ) 前庭に据付完成。
- 昭和51年 9月18日 皇太子殿下、同妃殿下「柿右衛門名品展」ご観覧のためご来館。
- 昭和51年10月22日 天皇陛下、皇后陛下「若楠国体芸術展」ご観覧のためご来館。
- 昭和52年12月12日 佐賀藩鋳造鉄製「カノン砲」(復元) 玄関前据付完了。
- 昭和53年 5月 4日 常陸宮殿下、同妃殿下常設展「佐賀県の歴史と文化展」ご観覧。
- 昭和53年11月 5日 茶室「清恵庵」開室 5周年記念合同茶会開催。出席者約1,500名。
- 昭和54年 7月19日 入館者総数100万名に達する。
- 昭和55年 4月23日 古賀忠雄氏遺作(232点) 遺族より寄贈。
- 昭和56年 4月17日 山口猛彦作遺作(34点) 遺族より寄贈。
- 昭和57年 5月10日 鍋島則子氏より工芸品(85点) 寄贈。
- 昭和58年 2月 7日 御厨俊江氏より御厨純一氏の作品(28点) 寄贈。
- 昭和61年 3月17日 佐賀植物友の会(須古将宏会長) から植物腊葉(さくよう—おしば) 18,000点の寄贈。
- (以上のはか、多くの方々から貴重な資料を寄贈して頂きました。ここには点数の特に多いもののみを記載しました。)

博物館日誌 (昭和61年度)

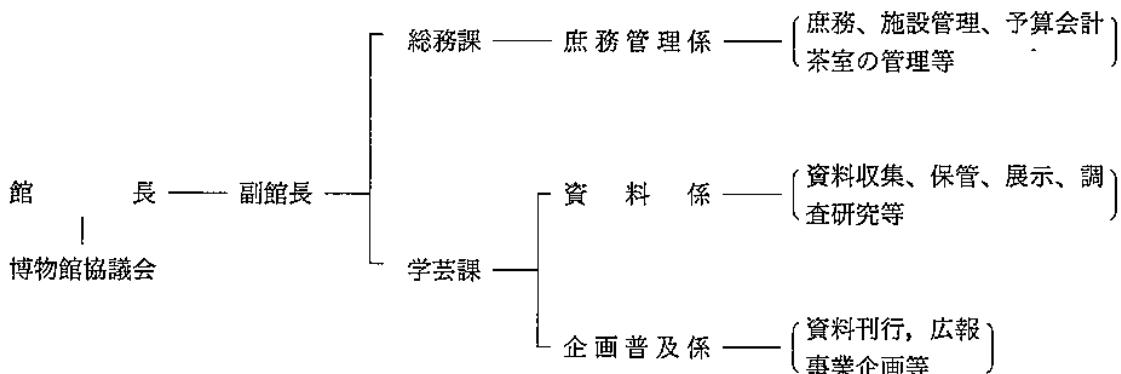
- 4月 1日 職員人事異動
第1期常設展「佐賀県の歴史と文化」(6月15日迄)
- 4月14日 昭和61年度展覧会案内等普及
- 4月29日 天皇誕生日、天皇陛下御在位60年を記念し、博物館・美術館常設展無料
- 5月 5日 こどもの日を祝って、博物館・美術館常設展無料開館
- 6月19日 第2期常設展「佐賀県の歴史と文化」(10月19日迄)
- 7月23日 博物館実習開講式(8月2日迄)
- 9月14日 杉野女子大学11名博物館学実習として来館
- 9月19日 第36回佐賀県児童生徒理科作品展(9月26日迄)

- 10月 4日 第5回よみがえれ佐賀展（10月12日迄）
 11月 1日 第36回佐賀県美術展（11月9日迄）
 11月15日 第10回佐賀県高等学校芸術祭 美術・書道展（11月24日迄）
 11月27日 第3期常設展「佐賀県の歴史と文化」（3月31日迄）
 12月27日 執務納め式
 1月 5日 執務始め式
 1月15日 「成人の日」により常設展無料開館
 1月23日 常設特別展「古川松根展」（3月1日迄）
 2月21日 博物館研究講座（歴史・文学講演会）
 　　「佐賀の近世文学—古川松根展によせて—」
 　　講師 田中道雄先生（佐賀大学教授）
 3月 5日 國學院大学57名博物館学実習として博物館見学

規模および施設

構 造	鉄筋コンクリート造	3階建	中展示室	136.0m ²
規 模	敷地面積	30,926m ²	収蔵庫並整理室	524.0m ²
	建築面積	2,149.1m ²	研究室	66.0m ²
	延床面積	4,638m ²	館長室・応接室	60.0m ²
(茶室)	構造 木造平屋建		事務室	80.0m ²
	規模 床面積	57.35m ²	資料調査室	64.0m ²
施 設			撮影暗室	24.0m ²
ロビー(案内所・常設展受付)		349.5m ²	東 庫	56.0m ²
1号展示室		193.6m ²	荷解場	86.0m ²
2号展示室		352.0m ²	電気室	48.0m ²
3号展示室		484.0m ²	ボイラー室(制御室を含む)	181.0m ²
大展示室		523.5m ²	その他	1,410.4m ²

組 織



職員名簿 (昭和61年4月1日現在)

	職名	氏名		職名	氏名
館長		大塚正道	学芸課 資料係 企画普及係	学芸課長	小宮睦之
副館長		神宮忠義		資料係長	森醇一郎
副館長		高島忠平		主査	藤口健二
総務課	総務課長	溝口洋		主査	宮原香苗
	主査	中村美沙子		学芸員	福井尚寿
	主査	古川宣明		非常勤嘱託	浜野四郎
	主事	大島暁夫		企画普及係長	田中裕
	主事	石田誠		学芸員	松本誠一
	主事	中島恭助		学芸員	大隈博文
	事務員	坂井卓次		学芸員	山崎和文
	事務員	小石武彦			
	技術員	戸川内匠			
	非常勤嘱託	穂月勝次			

人事異動 (昭和61年4月1日付)

○転入

副館長 高島忠平(文化課参事より)
総務課長 溝口洋(県水産試験場庶務課長より)
主事 中島恭助(教職員課より)

○転出

総務課長 池田清八(唐津県税事務所次長へ)
庶務管理係長 秀島智津(消費生活センター所長補佐へ)
主事 山田洋子(県立盲学校へ)

○昇任

企画普及係長 田中裕(学芸員補より)
主査 中村美沙子(主事より)

昭和61年度歳出予算 (博物館)

科目	予算額(単位千円)	科目	予算額(単位千円)
(博物館費)			
1 博物館運営費	39,364	4 企画展費	19,157
管理運営費	38,421	企画展開催費	19,107
会議及び研修費	580	理科作品展	50
博物館協議会費	363	5 常設展費	2,181
2 資料整備費	19,020	常設展示費	1,766
資料購入費	10,501	常設特別展示費	415
資料整理費	8,392	6 普及活動費	27
資料収集費	127	研究講座費	27
3 調査研究費	759	7 資料刊行費	2,912
研究費	170	茶室管理費	209
調査費	589		
次年度調査費	0		
歴史美術調査費	79		
考古資料調査費	82		
調査刊行費	428	計	83,629

事業の実施状況

1. 昭和61年度 常設展（博物館）

第一期 4月1日～6月15日

第二期 6月19日～9月15日

第三期 11月27日～3月31日

I 佐賀県の自然（中展示室）

佐賀県が最初に陸地化したのは、中生代の終り頃、約7,000万年前で、地形的には四つに分けられる。中生代の花崗岩を主体とした脊振山地と、新生代第三紀の堆積岩と火山岩類の西部地区と、第四紀に形成した多良山地と、第四紀沖積期に堆積した佐賀平野とからなる。

佐賀の化石ではオオムガイが有名で、その中の一つは日本一大きいもので40cmを超えている。オオムガイが発見される北波多村から多久市にかけての第三紀は、海であった証拠となっている。また動物では、伊万里湾のカブトガニと有明海のシャミセンガイがあり、カブトガニは4億年間生き続けて三葉虫の姿を残し、オオシャミセンガイは日本では有明海にだけ住み、佐賀の人々は「女冠者」として親しんでいる。また、有明海は渡り鳥の中継地として日本最大のもので、春と秋にはツクシガモをはじめ多くのシギ・チドリがおとずれる。

佐賀の県鳥のカササギは、国の天然記念物として大切に保護されている。

① 佐賀県のおいたち

佐賀県の地質・化石・県内の岩石

② 佐賀県の野鳥

③ カブトガニの生育と分布

④ 各種模型（タイラノザウルス・有明海）

II 原始・古代の郷土（1号展示室）

一旧石器時代・縄文時代一

旧石器時代人の生活の場は、鬼ノ鼻山麓・国見山麓・上場台地等において主に発見されている。

なかでも、「鬼ノ鼻山」北側山麓に点在する茶園原遺跡や三年山遺跡からは、安山岩を素材にした尖頭状石器が多数発見される。この尖頭状石器は県内で最も古い形式の石器群として編年されており、今から約18,000年前頃の狩猟用あるいは防護用道具であったことが推定される。

伊万里市の「腰岳」に産する黒曜石を素材にして製作された石器は、旧石器時代末期に編年される細石器が主体となる。これらの石器は、伊万里市の平沢良・鈴桶・白蛇山岩陰の各遺跡や、東松浦半島の原・枝去木・生石・磯道の各遺跡、小川島・馬渡島等でも発見されている。また近年、脊振南麓の神埼町内でも発見されはじめた黒曜石の石器には、ナイフ形石器・台形石器・細石刃等があり、主に狩猟用や加工工具として使用されたものと思われる。

縄文時代になると石器と共に、成形した粘土を焼成した土器によって、それまで活用困難であった食糧源をより積極的に利用・活用することが可能となり、食生活の一層の安定がはかられた。

縄文土器の発生は、理化学的な年代測定の結果今から約13,000年前後と推定され、長崎県の福井洞穴や泉福寺洞穴さらには佐賀県の中尾岳洞穴や白蛇山岩陰等で、始源期土器の解明が試みられている。縄文時代の終息は、稻作農耕技術が朝鮮半島から移入される紀元前400年頃とされる。縄文時代は使用された土器の文様から、早・前・中・後・晩の五期に分離することができる。

主な遺跡には、伊万里市の白蛇山岩陰や西有田町の中尾岳洞穴、唐津市の西唐津海底遺跡・佐賀市の丸山遺跡・神埼町の戦場ヶ谷遺跡等がある。

① 石器を使った人々 一旧石器時代一

・石器に使用された原石

・旧石器時代末期の各種石器

② 土器を使うくらし 一縄文時代一

・縄文時代早～前期の土器 ・縄文時代早期の各種石器 ・縄文時代中期の土器 ・縄文時代中期の各種石器 ・縄文時代後期の土器 ・縄文時代晚期の土器

一弥生時代・古墳時代一

弥生文化は稻作の開始、大陸系磨製石器や金属器の使用、紡織技術の受容等で特徴づけられる。しかし、近年の調査（唐津市菜畑遺跡・福岡市板付遺跡・福岡県曲り田遺跡）によってこれら諸要素が縄文時代晚期後半に、すでに揃っていることが明らかとなり、この時期を弥生時代早期と設定する考えも提出されている。弥生時代における文化交流は多様であり、常設展では南方との交易を示す巻貝製飾り、朝鮮製青銅器など前期末の資料と、中期中頃以降に流入する漢式鏡等を展示。

近年の調査の成果の一つに、輸入品といわれてい

た細形武器類のうちに国産品があることを証明した
惚座遺跡出土の鋳型がある。姉遺跡出土矛鋳型と共に、弥生時代中期前半には青銅器の国産開始が知られる。

祭祀用の青銅製品の鋳造は、武器形以外に銅鐸も安永田遺跡の出土例から知られる。佐賀平野東部半部から集中的に出土している鐸形土製品は、銅鐸の影響というよりも朝鮮式小銅鐸の系譜をひくもので、武器形以外に九州でも鐸形祭祀が集落ごとに行われたことを示している。

佐賀県における畿内型古墳の伝播は、玄界灘沿岸地域では経塚山古墳や壺路寺古墳など4世紀後半代に認められる。双水柴山2号墳はさらに古い古墳に比定されている。佐賀平野東部地域では庄内系の壺を出した西一本杉古墳や布留式土器を出した上峰五本谷方形周溝墓が成立する。同西部地域では三日月町下久米や戊等でも方形周溝墓が出現する。これらの時期の古墳は、鳥栖市赤坂古墳・小城町寄居古墳が近年発見された。また、諸富町では畿内系と吉備系土器が集落跡で共存するなど、古墳時代開始期の様相は複雑である。

丸山古墳群は5～6世紀の古墳（石室）の展示場ともいべき多様性がある。舟形石棺は、八女地方に分布する阿蘇熔結凝灰岩製である。この種の凝灰岩は6世紀まで利用されたもので、八女地方つまり筑後国造の本拠地との文化的、あるいは政治的関係を推測させるものである。装飾古墳も石人石馬と共に、筑肥の特色ある古墳文化の一つである。

① 水稲農耕社会の発展 一弥生時代一

- 土器の変遷 • 農耕具の発達 • 弥生人の装身具 • 副葬品にみる青銅器 • 鉄製武器の発達 • 弥生人のまつり

② 古墳が築かれたころ 一古墳時代一

- 4世紀～5世紀前半の古墳の副葬品 • 土師器と須恵器 • 丸山古墳群出土品 • 花納丸古墳出土品 • 武器、武具、馬具類 • 田代太田古墳 • 古墳出土の装身具

III 古代・中世の郷土（2号展示室）

推古天皇2年（593）に摂政となった聖德太子は、天皇を中心とする中央集権国家の建設を目指した。これは、中大兄皇子らによる大化改新（645）を経て、大宝元年（701）、藤原不比等らによる大宝律令が発布されることにより実現された。

肥前国では、大和町久池井付近に国府が置かれ、

大宰府防衛のための基肄城が基山に築かれた。

そして、肥前國風土記によれば、肥前の地には、駅18所・烽20所が付設され、11郡・70郷・187（184？）里が存在していた。なお、現在、神埼・多久・逢鹿などの11駅と鳥栖の旭山・神埼の日隈山・唐津の鏡山の3烽が比定されている。また、条里制の名残は、小城郡や神埼町など各地に「壹の坪」「田道ヶ里」など当時の条・里・坪名が字名や集落名などとして残り、各地で遺構も発掘されている。

また、奈良時代初頭には、人口は肥前全体で約9万人、水田面積は約1万ヘクタール、現在の佐賀県地域には約7万人がいたと推定されている。

そのほか、産業としては、米のほか粟・麦・豆類などが栽培されていたと推定され、肥前國風土記によれば、松浦地方では、海女たちを中心とする海産業が盛んに行われていたようである。

さて、律令政治再建のため平安遷都（794）や三代格式の編集が行われたが、9世紀中葉には藤原北家が成長、10世紀後半以降摂関政治が行われた。

この頃、有力農民は、小農民を使って整田開発を進め、その土地を荘園として有力貴族や大寺院に寄進して在地領主化したが、漸次武士化し、一族や従者を率いて武士団を形成する者も現われた。

こうした結果、延喜2年（902）を最後に班田は実施されなくなり、国司への租税徴収の委任は、公民課税から土地課税へと支配体制を変化させた。

肥前の荘園としては、院御領の神崎御荘（神崎郡南部）や最勝寺領川副荘（佐賀郡川副町）・最勝光院領松浦荘（東松浦郡一円）・太宰府觀世音寺領中津荘（杵島郡白石町）などが成立している。

こうした時期、治暦4年（1068）に即位した後三条天皇や、統く院政では積極的政策が行われたが、保元の乱（1156）・平治の乱（1159）の結果、武士の勢力は急速に強まった。そして、同世紀末には平氏による初めての武家政権が誕生した。

しかし、貴族的性格が強く専制的な平氏政権に対し、貴族・大寺院や地方武士団の不満が高まり、治承4年（1180）には源氏が挙兵、頼朝は建久3年（1192）、鎌倉を開幕した。彼は、全国に守護・地頭を任せ、所領を媒介とする封建制度を確立した。

県内でも、既に武士化していた在地領主層の高木宗家や南二郎季家などが、それぞれ深溝北郷内甘南備（佐賀郡大和町春日）や小津東郷内龍造寺村（佐賀市城内付近）などの地頭職に任命された。

さて、文永11年（1274）・弘安4年（1281）に、元の大軍が北部九州に来襲したが、九州北西部に勢力

を誇っていた松浦党や肥前の武将の活躍は目ざましく、暴風雨の助けもあり、これを退けえた。

この元寇では全国の多くの武将が戦死した。肥前では、松浦党の佐志氏や山代氏の一族、そのほか龍造寺小三郎左衛門尉などが戦死している。また、異国警護番役や石築地役などの出費がかさみ、全国の御家人は経済的にも圧迫された。

これに対し、国内紛争と異なり、幕府には充分な恩賞は出せなかった。ちなみに、当時幕府領となっていた神崎莊は400余人に細かく分配されている。

これに加え、北条氏得宗が専制政治を行ったため、元弘3年(1333)、足利尊氏らが倒幕、翌年、新政府が樹立された。しかし、尊氏は翌建武2年に叛旗を翻し、翌年、光明天皇を立てて室町に開幕した。一方、後醍醐天皇は吉野で皇位を主張、南北朝の戦乱が始まった。さらに観応元年(1350)、足利氏が内部分裂し、南朝方と三巴の争乱となった。

この間、鎌倉倒幕に即応して小式・大友・島津氏らが大宰府の鎮西探題を攻め、肥前の武将の多くもこれに従った。また、建武2年(1335)の足利氏の挙兵には、龍造寺家房・千葉胤貞が応じ、後には松浦党もこれに加わった。これ以降の九州は、尊氏配下の鎮西探題一色道猷の支配下に入った。

しかし、正平5年(1350)、足利直冬・小式頼尚が一色氏を攻め、直冬の部下今川直貞は、佐賀・小城・杵島へと進攻した。正平14年(1359)、征西將軍懷良親王は北朝方に転じた小式頼尚を破り、正平16年には大宰府を攻略、九州を平定した。しかし、これも長続きはせず、応安5年(1372)、九州探題今川了俊は親王軍を敗走させ、永和元年(1375)、同じ北朝方の小式冬資を肥後の水島の陣に破り、翌年には、佐賀・小城・杵島へと進攻した。

さて、明徳3年(1392)、南北朝が合一した。しかし、6代將軍義教は、守護大名の統制を厳しくしたため永享の乱(1438)・嘉吉の乱(1441)が起こり、義教は殺害され幕府の権力は大きく揺らいだ。

さらに、応永元年(1467)、幕府管領家の家督相続争いは、將軍職の相続争いが絡み、全国を二分した争いへと発展、戦国の世となつた。

この間の九州西部では、九州探題渋川・大内氏と小式氏の間を中心とした争いが繰り返された。

応永30年(1423)には、小式満貞・大友持直らが大内盛見を敗走させ、明徳5年(1496)には小式政資が大宰府に進攻した。しかし、翌明応6年には大内義興が政資を破って自刃させ、千葉興常を肥前守護代に任じた。享禄3年(1530)、大内義隆の命で筑

前守護代上杉興運が肥前へ進攻してきたが、小式資元・冬尚らが龍造寺・小田・鍋島ほか神崎・佐賀諸氏の奮戦によって上杉氏を敗走させた。天文元年(1523)にも大内氏は小式氏討伐の兵を進めたが、これも製造寺氏らの働きで敗走させた。こうした戦乱のなかで、製造寺氏が大きく成長し、肥前の統一を進めていく。

1. 暮しと祈り

・土器質碗・須恵質皿・土器質皿・須恵質皿・滑石製硯・土鏡・土馬(肥前國府跡)・青磁碗・石鍋(千代田町崎村三本黒木遺跡)・三足付鍋・滑石製分銅(神崎町尾崎利田遺跡)・羽釜(三根町土井の内遺跡)・滑石製鏡(神崎町尾崎土生遺跡)・砥石(神崎町詫田西分遺跡)・滑石製硯・滑石製仏浮彫・懸仏・滑石製船形模造品(大和町西山遺跡)・青銅製箸・馬鞍前輪・世高通宝・洪武通宝・永楽通宝(三田川町下中杖遺跡)・把手付水注・置灯籠・青磁四耳壺(東脊振村靈仙寺跡)・懸仏(唐津市淨泰寺)・銅像文人椅像(佐賀市大興寺)

2. 郷土の仏教美術

・銅造釈迦如来立像(武雄市広福護国禪寺)・銅造釈迦如来立像(鳥栖市万歳寺)・銅造如來形立像(唐津市淨泰寺)・木造聖觀音立像(複製・三田川町東妙寺)・木造阿弥陀如來坐像(佐賀市大興寺)・木造地蔵菩薩坐像(大和町高城寺)・銅造菩薩形坐像(個人)・銅造菩薩形坐像(鹿島市普明寺)・銅造菩薩形坐像(鳥栖市大昭寺)・銅造菩薩形坐像(鳥栖市妙覺寺)・銅造菩薩形坐像(鳥栖市安生寺)・塑造仏頭(個人)・木造仏頭(個人)・軒丸瓦・軒平瓦(肥前國分寺跡)・軒丸瓦・軒平瓦(大和町大願寺廃寺跡)・軒丸瓦・軒平瓦(小城町晴氣廃寺跡)・銅鐘(複製・成田ニュータウン出土)・銅鐘(大和町健福寺)・銅鐘(小城町星巣寺)・銅鐘(大和町高城寺)・雲版(大和町高城寺)・雲版(福岡市聖福寺)・鰐口(有明町東樂町)・五股杵(山内町定林寺)・五股杵・五股鈴(太良町觀世音寺)・銅鐸鈴(小城町円通寺)・青銅鉢(嚴木町天山神社)・戒体箱・居箱・香炉箱・如意(大和町実相院)・五股鈴・二器・六器(個人)・肥前古鐘銘屏風(個人)

IV 近世のあゆみ(2号展示室)

肥前の統一は、龍造寺一族の台頭のきっかけをなした今山合戦で、合戦に関した龍造寺隆信の成松信勝への感謝状や、隆信の甲冑姿の肖像でしのぶことができる。

名護屋城図屏風は、豊臣秀吉の朝鮮への出兵時の築城の模様を描いたものである。慶長年中肥前国絵図は、各大名が協力して作製したもので、幕府が全国を国単位で支配しようとした意図を読み取ることができ、統一前後の肥前の模様を物語っている。

幕末、佐賀藩の藩主鍋島直正は、近代的科学技術の導入と海軍力の増強に力を注ぎ、側近の一人であった古川松根の記したオランダ船乗組図では蘭癖大名の直正をかいま見ることができる。

山本常朝が「はがくれ」を書くが、すぐれた文人であったことにも注目される。佐賀藩の教育の中核をなした弘道館は、明治維新期に活躍をした多くの人々を輩出したが、七賢人は最も著名な人達であった。

- ① 肥前の統一
- ② 肥前名護屋城の築城
- ③ 近世諸藩の成立
- ④ 長崎警備
- ⑤ 幕末の対外情勢
- ⑥ 鍋島直正の登場
- ⑦ 幕末の科学技術
- ⑧ 長崎海軍伝習所
- ⑨ 藩政期の文教

V 郷土の工芸（3号展示室）

近世肥前を語るに欠くことのできない陶磁器を中心、鍋島藩にまつわる染織や漆工などを通観する。

素朴な土の温もりを残す古唐津陶器、初期伊万里様式にはじまり、日本のみならず、ヨーロッパにもその名を拡めた古伊万里様式、柿右衛門様式の華やかな磁器、端麗な鍋島藩窯様式の磁器の数々を様式別に紹介する。

新収蔵品として、一幅の木綿布に染付けて掛軸を模した「鍋島更紗掛軸 玉堂富貴図」、鍋島段通2畳を展示した。

- ① 古唐津陶器
- ② 初期伊万里様式磁器
- ③ 古伊万里様式磁器
- ④ 柿右衛門様式磁器
- ⑤ 柿右衛門様式西洋倣製品
- ⑥ 鍋島藩窯様式磁器
- ⑦ 染織：鍋島更紗・鍋島段通（一期のみ）
- ⑧ 漆工など

VI 肥前の近世絵画と近代の書（3号展示室）

肥前のうち長崎においては、外国との交渉により写生派・洋画派などが生まれ、絵画史上大きな影響をえたといえる。一方、佐賀藩・唐津藩における画壇は、必ずしも活発ではなく、漫画系が中心であったが、主導的立場にあるべきお抱絵師にしても、その系譜は断続的であった。しかし、幕末頃には写生画・南画・浮世絵なども制作されるようになり、また西洋絵画に対する理解もすすみ、近代の百武兼行登場を待つことになる。

第Ⅰ期（4月1日～6月22日）

筆者不詳 観桜図屏風／天龍道人 梅に鷹図・鷹図・岩上鷹図・栗穂に叭々鳥図・菊溪双鴨図・葡萄図・李白観瀑図／周幽斎夏龍 ほととぎすと美人文書き図／住吉弘貫 新嘗祭図(古川松根讃)／古川松根 京都風景図巻・書額「寿慶」

第Ⅱ期（6月24日～9月15日）

狩野高信 春秋孔雀図屏風／大木英鉄 騎馬人物図／天龍道人 岩上鷹図・唐黍に鶏図・葡萄図・山水図／草場佩川 古梅図(古賀精里讃)・松竹図(双幅)・鳥菜図屏風／高柳快堂 秋景山水図

第Ⅲ期（11月27日～1月18日）

住吉弘延 源氏物語若菜図屏風・竹図屏風／歌川豊国 浅草年の市・正月図(双幅)／周幽斎夏龍耕織図屏風／草場佩川 松竹梅図(三幅)／成富椿屋 仁比山不動院之図・松に鶴図

近代は、書においても芸術性の追求が盛んになる時期である。本県関係では、明治の元勲副島種臣(蒼海)や、当時「銀座の書聖」と呼ばれた中林隆經(梧竹)、さらに西川春洞らが能書家として知られる。

第Ⅰ期

中林梧竹 周秦古器銘評語屏風・十七帖臨書屏風(矢瓢帖)・五言絶句三行書(十二幅のうち六幅)

第Ⅱ期

中林梧竹 五言絶句屏風／副島種臣 李鴻章評語・三行書(必得……)・七言律詩五首十行書(江水……)

第Ⅲ期

中林梧竹 二行書貼合屏風／副島種臣 富士山図並和歌・登金陵鳳凰臺屏風

VII 郷土の民俗（大展示室）

郷土の民俗では、歴史を民俗的視野から概観できるよう試みている。

とくに、国の重要有形民俗文化財に指定されている有明海漁撈具は内容・量ともに充実しており幕末から明治初頭にかけての作と思われる「有明海漁業実況図」(松田房晃筆・全23図)と共に、有明海の漁撈習俗を十分に知ることができる。また、有明海関係の資料として昭和42年7月1日の狩獵法改正の時期まで使用されていた鴨銃とその弾丸製作工程は、当時の有明海における狩獵の状況を知ることが可能といえよう。

農業関係の資料としては、灌漑・害虫駆除に苦しんだ時期にあたる明治・大正年間を中心として使用された各種農具があり、佐賀農業の発展を願う農民の強い意志がうかがわれ、様々な工夫がなされていることも知ることができる。

その他、鳥栖市田代を中心とした製薬・売薬関係資料、東松浦郡相知町横枕の大甕製作用具や韓国で

使用されている製陶用具、名護屋の海士を含む玄海の漁撈具等が、佐賀の民俗を特色づけている。

- ① 佐賀の民俗行事写真パネル
- ② 住まいの道具
 - ・収納家具 ・あかり
- ③ 佐賀県農業のあゆみ
 - ・耕作用具 ・管理用具 ・収穫用具
 - ・調整用具 ・泥土揚げ用具
- ④ 有明海の漁業
 - ・干潟漁業と用具 ・養殖と採捕用具
 - ・有明海漁業実況図 ・船で使う生活用具
 - ・名護屋の海士 ・釣漁
- ⑤ 相知町の横枕の大甕づくり
- ⑥ 韓国の製陶用具
- ⑦ 製薬関係資料
- ⑧ 和紙製作用具

2. 常設特別展

古川松根展

主催 佐賀県立博物館

会期 昭和62年1月23日(金)～3月1日(火)

会場 佐賀県立博物館 3号展示室

観覧料 常設展観覧料に含まれる

展示概況

古川松根(1813～1871)は佐賀藩士の三男として江戸藩邸に生まれ、幼くして鍋島直正(号閑叟、佐賀藩第10代藩主)の御相手に選ばれて以来、直正の側に仕え終に直正に殉じた。「純忠之臣」として知られる一方、和歌国文に長じ有職故実に通じるほか、書道・篆刻など多方面の分野ですぐれた才能を発揮した人物であった。

今回の展覧会は、和歌・書画を中心に松根の業績

出品一覧

番号	資料名	作者など	材質	形状・員数	寸法
1	源氏物語夕顔図	古川松根	絹本着色 (図)絹本着色 (和歌)紙本	一 幅 二曲一隻	116.2×48.3 (各局) 117.0×53.5
2	楠公父子訣別図並和歌屏風	古川松根			
3	楠木正成像	古川松根	絹本着色	一 幅	101.6×41.0
4	鉢の木図	古川松根	絹本墨画淡彩	一 幅	65.3×32.3
5	勿来関図	古川松根	紙本墨画淡彩	一 幅	123.6×60.0
6	郭子儀祝賀図	古川松根	絹本着色	一 幅	131.8×80.7
7	夫婦立雛図(讀鍋島直正)	古川松根	紙本着色	一 幅	73.0×37.0
8	神農図	古川松根	絹本着色	一 幅	103.0×34.6
9	菅原道真像	古川松根	絹本着色	一 幅	107.1×39.4
10	紀貫之像(讀富小路政直)	古川松根	絹本着色	一 幅	115.0×39.4
11	柿本人麿像	古川松根	絹本着色	一 幅	113.6×44.4



古川松根展(展示状況)

を紹介し、とかく見過ごされがちな松根の文化面での果した役割を、再認識しようとするものであった。

番号	資料名	作者など	材質	形状・員数	寸法
12	柿本人麿像額	古川松根	紙本着色	一面	97.6×32.2
13	三十六歌仙下絵	古川松根	紙本墨画	一巻	47.5×966.2
14	集外三十六歌仙画帖	古川松根	紙本墨画淡彩	一帖	(各) 23.3×13.3
15	大石良雄宴樂図屏風	古川松根	紙本着色	二曲一隻	(各扇) 85.7×43.2
16	婦人図	古川松根	絹本着色	一幅	99.2×40.0
17	福女図	古川松根	絹本着色	一幅	96.8×47.1
18	美人図	古川松根	絹本着色	一幅	104.0×35.0
19	美人図	古川松根	紙本着色	一幅	84.5×25.5
20	梅に鞠毬・羽子図	古川松根	絹本着色	一幅	87.7×37.0
21	花鳥図屏風	古川松根	紙本着色	一幅	(各扇) 128.0×64.2
22	草花図	古川松根	絹本着色	一幅	146.6×70.9
23	春草・秋草図	古川松根	紙本淡彩	双幅	(各) 35.5×62.5
24	三愛図	古川松根	絹本着色	一幅	129.5×50.0
25	菊に水仙図(讚高崎正風)	古川松根	紙本墨画	一幅	127.5×29.5
26	河骨図	古川松根	紙本墨画	一幅	130.8×30.3
27	写生図卷	古川松根	紙本着色	一巻	28.2×43.5
28	軍營の月図並讃	古川松根	紙本墨画	一幅	117.8×55.3
29	日の出松に鼠図	古川松根	紙本着色	一幅	40.3×55.3
30	柳図	古川松根	絹本墨画	一幅	38.8×55.5
31	入江鷺図	古川松根	絹本墨画淡彩	一幅	38.7×51.4
32	書画帖	古川松根	紙本着色	二帖	19.1×34.3
33	鍋島直正和蘭船乗り込み図	古川松根	紙本着色	一巻	30.0×1389.5
34	和蘭使節長崎鎮台へ書簡提出する途中行列図	古川松根	紙本着色	一巻	30.1×649.0
35	京都風景図巻	古川松根	紙本墨画淡彩	一巻	29.8×848.9
36	上京日記	古川松根	(墨画)	一冊	25.8×17.2
37	画集	古川松根	(墨画)	二冊	(各) 20.4×13.8
38	源氏図抄	古川松根	(墨画)	一冊	27.0×19.8
39	「賀之記」ほか相伝抄	古川松根	(墨画・着色)	一冊	29.2×21.1
40	○花納丸古墳出土品記録	(国)古川松根 (文)草場佩川	版本	一枚	26.0×46.0
41	陣列略図	古川松根	(墨画)	一冊	20.9×13.2
42	隊列略図	古川松根	(墨画)	一冊	26.7×18.5
43	新嘗祭図額(讚松根)	住吉弘貴	絹本着色	一面	40.2×188.5
44	高砂図	住吉弘貴	絹本着色	双幅	105.5×43.6
45	人物図額	住吉弘貴	絹本着色	一面	33.3×92.5
46	富士山図額(讚松根)	柴田は真	絹本着色	一面	44.0×69.0
47	四季の花図	柴田は真	絹本着色	一幅	122.6×54.3
48	月下兔図	柴田は真	絹本墨画	一幅	122.8×54.3
49	古川松根肖像	作者不詳	画布・油彩	一点	37.5×30.5
50	宝船図(松根印影)	「青里」	紙本墨画淡彩	一幅	134.2×52.1
51	二行書「半世功名…」	古川松根	紙本	一幅	130.9×27.7
52	三行書「窓戸吐香…」	古川松根	紙本	一幅	135.2×59.2
53	七言絶句二首屏風	古川松根	紙本	二曲一双	(各扇) 132.1×55.9
54	書額「鶴雲」	古川松根	絹本	一面	34.2×69.7
55	書額「萬古清風」	古川松根	紙本	一面	26.0×83.5

番号	資料名	作者など	材質	形状・員数	寸法
56	書扇面（二種）	古川松根	紙本	一 幅	(上) 15.8×48.1 (下) 17.5×52.1
57	和歌四首屏風	古川松根	紙本	二曲一双	(各扇) 128.1×55.6
58	楓廻落葉 上・下	古川松根		二 冊	(各) 25.3×18.2
59	詠草	古川松根		一 冊	24.0×16.5
60	小車集初編 上・下	古川松根		二 冊	(各) 19.3×13.3
61	小車集 上・下	古川松根		二 冊	(各) 17.3×11.8
62	三十六番歌結	古川松根		一 冊	32.4×22.5
63	嵯峨のしきり	古川松根		一 冊	23.7×16.0
64	管絃秘曲之譜	古川松根		一 冊	15.9×9.2
65	案文差出扣	古川松根		一 冊	24.5×17.2
66	遺書など	古川松根		九 枚	(豎) 17.8
67	辞世二首	古川松根		一 枚	17.8×26.0
68	短冊	古川松根 附: 広足・松根ほか 小車社収入など			
69	書扇面	香川景樹	紙本	一 幅	16.3×48.5
70	三行書「雪華飄乍…」	佐藤一斎	紙本	一 幅	117.0×48.3
71	松根宛書簡など	是真・弘實 広足ほか	紙本	三 卷	(豎) 126.2
72	松根宛書簡	草場佩川		一 通	6.2×36.8
73	近世百歌仙	(撰)長沢伴雄	紙本	一 卷	22.3×79.6
74	古川松根純忠之碑拓影	(撰文)久米邦武	紙本拓影	一 幅	180.2×89.7
75	染付山水図蓋物蓋	(国)古川松根	磁器	一 点	(口径) 50.5
76	染付柳桜図水指		磁器	一 合	(口径) 19.8 (高サ) 18.0
77	染付千鳥文水指		磁器	一 合	(口径) 18.7 (高サ) 18.1
78	○染付鍋島藩窯絵図大皿		磁器	一 点	(口径) 50.5
79	染付魚藻文皿		磁器	一 点	(口径) 22.4×12.2
80	染付亀水草図輪花鉢		磁器	一 点	(口径) 15.8
81	鍋島藩窯図案			二 冊	38.0×28.0
82	松文漆硯箱	(蓋裏)古川松根		一 合	15.1×7.7×1.9
83	硯箱	小車社使用		一 合	22.4×24.4×4.7
84	唐來重硯箱	小車社使用		一 ○ 合	(各) 24.3×11.2×3.5
85	筆	松根使用		二 管	(大筆) 31.0 (行筆) 23.0
86	机	松根使用		一 基	41.2×76.4×8.0
87	弁当箱	小車社使用		二 組	(各) 15.2×19.7×6.0
88	短刀（銘「忠広」）並拵	初代忠吉		一 口	(長サ) 25.4
89	短刀（銘「源宗次造之」裏）並拵	八代宗次		一 口	(長サ) 23.3
90	短刀（銘表「洛陽住」裏）信濃守国広	伝 国 広		一 口	(長サ) 28.6
91	紺章威胴丸	松根着用		一 頸	(胴高) 32.0
92	鳥帽子	松根着用		一 点	9.2×27.0×15.0
93	笛	松根着用		一 管	(径) 2.5 (長サ) 40.0
94	鉄瓶（銘「寧楽園」）	松根使用		一 口	(口径) 12.7 (全高) 24.5
95	松飾り（「松根飾り」）			一 点	

作品所在（次に記す以外はすべて個人蔵）

鍋島報效会 9・11・13・25・33・34・70・

74番

佐賀県建設業協会 22番

佐賀県立図書館 37番

佐賀県立博物館 2・6・7・10・15・21・23・

24・27・35・40・43・53・64・

72・75・78・88・90・93番

3. 新収蔵品展 (博物館)

会 場 昭和62年3月12日～3月31日

会 場 3号展示室

出品目録

自然科学史部門

佐賀県産鳥類標本(三田川町・伊東健吾氏寄贈)

トラツグミ・ツグミ・コジュケイ・イカル・アトリ・アオバズク・ハシボソガラス・オオミズナギトリ・カイツブリ・バン他

佐賀県産蝶類標本(唐津市・溝上誠司氏寄贈)

アオスジアゲハ・ミカドアゲハ・ジャコウアゲハ・スジグロシロチョウ・カバマダラ・テングチョウ他

考古部門

唐津市菜畑遺跡出土品(複製)

昭和60年度分 扁平片刃石斧・抉入石斧・磨製石鏃・短弓・豎杵・諸手鍬・エブリ

昭和61年度分 結合式釣針・釣針軸部・単式釣針・骨製笄・木製モリ・木製杓子

脊振山頂出土経筒(複製)

歴史部門

歴史資料

諸岡家文書

佐賀藩近代砲術書ならびに枝吉南濠・枝吉神陽文書。

牟田家資料(千葉県柏市・牟田武彦氏寄贈)

佐賀藩士牟田家の砲術書など。

古賀家資料(福岡市・古賀淑子氏寄贈)

古賀精里・穀堂・洞庵の画像など。

書

作 品 名	作 者	備 考
七言絶句二首屏風	古川松根	
十行書	武富堯南	
二行書	西川春洞	
客中示人七言絶句二行書	副島種臣	
五字書扁額	尾崎行雄	
三条実美を送る書	島義勇	福岡市・竹中宏幸氏寄贈

近世絵画

作 品 名	作 者	備 考
農耕図屏風	長谷川雪旦	天保9年(1838)
竹・梅図屏風	草場船山	
大石良雄宴樂図屏風	古川松根	
人物図	成富独幽	
美人図	池田筠齋	
松に鶴図	草場船山	文久3年(1863)
山水図押絵貼屏風	高柳快堂	明治21年(1888)

中国絵画

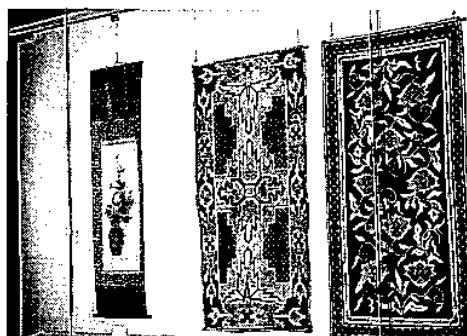
作 品 名	作 者	備 考
鶯図	伝呂紀	明代 寄託
墨仙詩画	錦衣姚	明代 寄託

工芸部門

鍋島更紗掛軸 玉堂富貴図

鍋島段通 花唐草文

鍋島段通 幾何学文



新収蔵品展(工芸部門)

4. その他の企画展（博物館）

展覧会名称	主催	会期
第35回 佐賀県児童生徒理科作品展	佐賀県理科教育振興会、佐賀県立博物館	9／19～9／26
第5回 よみがえれ佐賀展	佐賀市、佐賀市教育委員会、佐賀青年会議所、佐賀県機械金属工業会連合会、佐賀新聞社	10／4～10／12
農協共済小中学生 第11回 交通安全ポスター展 第22回 書道展	佐賀県共済農業協同組合連合会	10／15～10／19
第35回 佐賀県美術展	佐賀県、佐賀県教育委員会、佐賀県立美術館、佐賀県立博物館	11／1～11／9
第9回 佐賀県高等学校芸術祭 美術・書道展	佐賀県教育委員会、佐賀県高等学校教育研究会芸術部会、佐賀県高等学校美術連盟、佐賀県高等学校書道教育研究会	11／15～11／24

5. 博物館観覧状況調べ(昭和61年度)

常設展

	個人			団体			観覧
	大人	大・高	中・小	大人	大・高	中・小	
佐賀県の歴史と文化	3,979	300	844	315	36	21	552
〃	(1,573) 2,947	(75) 208	(173) 388	(107) 277		(34) 55	(44) 199
小計(1)	6,926	508	1,232	592	36	76	751

※()内は常設特別展「古川松根展」

その他の企画展

	個人			団体			観覧
	大人	大・高	中・小	大人	大・高	中・小	
佐賀県児童生徒理科作品展	1,171	34	925	4		767	
第6回 よみがえれ佐賀展	2,023		1,054	29		2,163	
交通安全ポスター及び書道展	554	36	433			665	
小計(2)	3,748	70	2,412	33		3,595	
合計(1)+(2)	10,674	578	3,644	625	36	3,671	751

会 場	展 示 概 要
博物館 3 号	小・中・高等学校の生徒による理科作品約150点を展示。
博物館 3 号	展示構成を④「なるほど・ザ・佐賀城」パートII⑤近代医学の確立とその先覚者⑥素晴らしい佐賀藩の科学技術⑦再現させよう「ハイテクランドさが」の4パートに組み、鯱の門の鯱の実物大模型や「肥前ビードロ」のガラス工芸品などを展示。
博物館 3 号	県内小・中学生の交通安全ポスター・書道入選作品400点。
博物館 2、3 号	日本画、洋画、彫塑、工芸、書、写真、デザインの各部門で県内から一般公募を行い入選作に審査員及び物故者の作品を加え450点を展示。
博物館 2、3 号	本県高等学校美術教育の振興と高校生の芸術文化活動の交流及びその向上をはかるもので、絵画・書等約500点を展示。

料 免 除		招待者	優待者	合 計	開館日数	一日平均	期 間
大・高	中・小						
267	3,946	467	43	10,770	171	63	4／1～10／19
(48) 77	(80) 278	(83) 87	58	(2,217) 4,574	(32) 96	(69) 48	(1／23～3／1) 11／27～3／31
344	4,224	554	101	15,344	267	57	

料 免 除		招待者	優待者	合 計	開館日数	一日平均	期 間
大・高	中・小						
				2,901	6	484	9／19～9／26
				5,269	8	659	10／4～10／12
				1,688	5	338	10／15～10／19
				9,858	19	519	
344	4,224	554	101	25,202	286	88	

6. 普及活動

(1) 資料の刊行

博物館報

発行回数4回、合計32頁、各号1,000部印刷(但し、№74号は1,500部印刷)、B5版、アート紙使用、配布先は県内教育機関、社会教育団体及び主な博物館等で、館の資料紹介ならびに利用促進資料として活用している。内容は次のとおりである。

№73 昭和61年6月1日発行 8頁

- エヒメアヤメ(国指定天然記念物)
- 植物標本の寄贈と保存処理について(記録)
- 資料紹介「紙本墨書大般若経」
- 昭和61年度展覧会ご案内
- 博物館・美術館日誌、館内販売図録案内、人事異動

№74 昭和61年9月20日発行 8頁

- 三人の女 北島浅一
- 北島浅一・御厨純一展
- 資料紹介「詫田西分貝塚出土の銅鏡」
- 刊行のご案内「佐賀県の歴史と文化一目でみる
郷土のあゆみー」
- 青銅器研究覚書
- 行事のお知らせ、館内販売図録案内

№75 昭和61年12月20日発行 8頁

- 源氏物語夕顔図(部分) 古川松根筆
- 「古川松根展」案内
- 資料紹介・工芸ー市井の彫金家 松尾忠次ー
- 資料紹介・歴史ー新収蔵 島義勇関係史料ー
- 行事のお知らせ

№76 昭和62年3月30日発行 8頁

- トリケラトプス(骨格模型)
- 昭和62年度特別企画「森林と文化展」
- 展示概要
- 行事のお知らせ

年報

昭和60年度佐賀県立博物館・佐賀県立美術館年報№16を刊行し、昭和60年度の管理概要、事業概況、資料概況、茶室の管理と運営の概況等を掲載し、各方面に配布、印刷部数800部、形態B5版、アート紙、62頁。

調査研究書

昭和61年度佐賀県立博物館・佐賀県立美術館調査研究書第12集を刊行し、各方面に配布した。印刷部数1,000部、形態B5版、アート紙、90頁。内容は次のとおりである。

佐賀県立博物館 美術館報



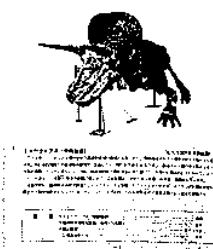
佐賀県立博物館 美術館報



佐賀県立博物館 美術館報

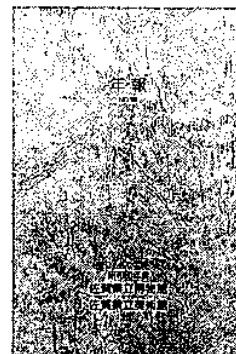


佐賀県立博物館 美術館報

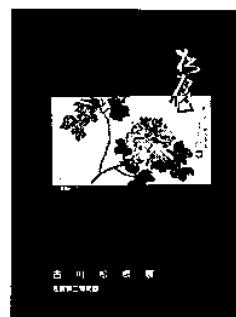


館 幸

調査研究書



年 報



調査研究書

古川松根展図録

○佐賀県の野鳥生息状況

○朝鮮半島の稻作・畑作

—初期農耕文化の検討にむけて—

○鍛金家 石田英一考

○慶長十年 鹿江崎・大詫間のはじ指漁免許状について

図録

「古川松根」展図録

博物館常設特別展「古川松根」展に伴い刊行されたもので、白黒13頁に作品94点、論考、目録、等総計18頁で構成。

① 研究講座

常設特別展「古川松根」の会期中に講演会を実施した。聴講者95名。

日時 昭和62年2月21日 会場 研修室

講師 田中道夫教授（佐賀大学教養部）

演題 佐賀の近世文学

—古川松根展によせて—

② 博物館学習実習

学芸員養成課程を有する大学からの要請により
7月23日から8月2日まで10日間、実施した。

実習生（所属大学）

古賀 夏子（九州産業大学・芸術学部）

木村志津子（福岡大学・人文学部）

古賀 基子（同上）

中垣 鎮子（同上）

立花 由香（橘女子大学・文学部）

実習内容は右のとおりである。

日	実務	内 容
7月 23日	業務説明	開講式・館内見学・予算について 地方博物館・美術館の役割、学芸業務・常設展
24日	企画展 自然史	企画展の準備と構成 植物標本の作製実習
25日	考古学 民俗学	拓本実習 民具の整理
26日	施設見学	ガラス工場・大隈記念館
28日	中世史 近世史	仏教資料の写真撮影・カード整理 佐賀県の近世史（講義）
29日	展示	東光会佐賀支部緑光会展飾付
30日	近世美術 中世史	掛軸等書画の取扱いについて 暗室写真焼付実習
31日	近・現代美術 工芸史	収蔵庫美術資料整理 茶室実習
8月 1日	刀剣・甲冑 施設見学	取扱いと手入れ 県農業試験場資料館・佐野常民記念館
2日	閉講式	座談会—実習を終えて、閉講式

7. 資料調査

隕石調査 西松浦郡西有田町

昭和61年3月19日午後8時頃、佐賀県内で火球が見られた。この時間は多くの人が家の中に居り、実祭の火球を目撃した人は少なかったが大音響を聞いた人はかなりいた。

目撃者によると火球は脊振山方面より、天山・八幡岳方向へと飛来し、西有田町付近で落下している。その間、数回の分裂を繰返しているようで、西有田地区以外は空中で光が消滅し、落下地点は確認されていない。

博物館では4月23日、5月11日、25日の3回、目撃者が多く、落下の可能性の高い西有田町原明地区と楠木原地区的搜索を行った。

隕石搜索は西有田町教育委員会の協力を受けて、左大西田民雄助教授の指導のもと深川製磁工場西側り丘陵地から楠木原へと搜索した。落下したと思われる現場は、スギの人工林やシイ・カシの2次林が茂り、枝をかきわけての搜索であったが、今回の搜索では、隕石落下の痕跡は発見できなかった。

アンコウ網に関する調査 佐賀郡川副町

徳永増夫氏（川副町咲分）所蔵のアンコウ網について調査した。

狭い有明海漁場に対し、新開地として求められた

のが朝鮮沖出漁であった。その中心をなしたのがアンコウ網漁船で、グチなどの雑魚を獲っていた。出漁の最盛期は大正年間で、現在は行われていない。

徳永氏所蔵のアンコウ網は戦前からのもので、5日間の日程をかけて朝鮮の西海岸方面へ出漁したアンコウ網漁船（帆船・7～8人で操業）に於いて、40年間余り使用された。碇と網をつなぐ碇網は直径5cm程度のマニラロープで木皮製である。

なお、八大龍王宮（天文5年 龍造寺隆信建立・佐賀郡川副町）には、アンコウ網漁船の模型（1／10）が奉納されている。

特別企画展に伴う資料調査

昭和62年5月に開催予定の博物館特別企画展「森林と文化展」の実施に伴い、佐賀県内の照葉樹林や林業を中心、木蠟、椿油、独楽、桶、樽、浮立面などの製作所、佐賀県の植物相（フロラ）や動物相（ファウナ）などの調査を行った。世界の森林や植生、日本の植生、森林の進化及び古生物については、国立科学博物館、北九州市立自然史博物館の所蔵品について調査をし協力を受けた。

資料調査先、所在地、主要な資料名については次表のとおりである。調査に協力を賜った機関ならびに各位に御礼を申し上げます。

調査先 (所) 在地	主な資料名(調査事項)
国立科学博物館 (東京都台東区上野公園7-20)	古生物(古生代・中生代・新生代の植物)日本の森林の動・植物
大阪市立自然史博物館 (大阪市東住吉区長居公園内)	西日本の動・植物
北九州市立自然史博物館 (北九州市八幡東区西本町三丁目6-1)	古生物(古生代・中生代・新生代の動植物化石)九州の動物剥製
熊本市立熊本博物館 (熊本市古京町3番2号)	化石(サンヨウチュウ・プロトフィルム・クラドフレビス・ヒシノミ)動物剥製(キュウシュウノウサギ他)
熊本営林局監物台樹木園 (熊本市二の丸4-1)	屋久杉円盤、動物剥製(アカネズミ、ハタネズミ、モグラ、ヤマネ)
熊本県鳥獣保護センター (熊本県上益城郡御船町高木)	動物剥製(タヌキ、キツネ、イタチ、白化イノシシ、チョウゲンボウ、ヤマシギ、ミソザエ)
佐賀大学農学部 (佐賀市本庄町1番地)	バイオテクノロジー(薬培養、植物突然変異体の作出、細胞融合、組換えDNA、ミカン亜科の植物生物防除、受精卵移植、ミカンの組織培養、ミカンのプロトプラスト)
佐賀県林業試験場 (佐賀郡大和町池ノ上)	有用材(アカガシ、イチイガシ、カキノキ、カシワ、キリ、クリ、サザンカ等)
伊万里建材株式会社 (伊万里市山代町久原)	外国産主要木材サンプル、輸入材見本(白ラワン、赤ラワン)
株式会社奈雅井商会 (伊万里市山代町久原)	外国産主要木材サンプル48種
佐賀県農林部林務課 (佐賀市城内1丁目1-59)	佐賀県の林業、佐賀県の森林
佐賀県農林部森林保全課 (佐賀市城内1丁目1-59)	緑の少年団、佐賀県の野鳥
佐賀県全国植樹祭事務局 (佐賀市域内1丁目1-59)	全国植樹祭会場、市町村の木
西九州外材株式会社 (伊万里市山代町久原)	輸入材見本(米松、米杉、ソ連マツ)
太良町森林組合 (藤津郡太良町大字多良)	林業(佐賀県の杉の品種、スギ林、ヒノキ林)
佐賀西部コロニー (藤津郡太良町田古里)	木材加工品
倉成靖治 (佐賀市成章町5-17)	佐賀県の植物(アカガシ林、ブナ林、バクチノキ、シチメンソウ、クロカミラン)
岩村政治 (佐賀市天祐1丁目)	佐賀県の植物(クロカミシライトソウ、ナンバンキブシ、ヤツガシラ)
久保正吾 (佐賀市八戸1丁目)	佐賀県の植物(バイカイカリソウ、ヒレフリカラマツ、イワゼキショウ)
江島龍也 (佐賀市嘉瀬町有重)	佐賀県の植物(ツクシシャクナゲ、アカメガシワ、イブキジャコウソウ、オナモミ)
貞松光男 (小城郡小城町畠田)	佐賀県の植物(ウチョウラン、コハウチワカエデ、ハンカイソウ、クマノミズキ)
上赤博文 (小城郡牛津町牛津)	佐賀県の植物(ヤマルリソウ、ツクシショウジョウバカマ、サギソウ、ノギラン)

調査在先地	主な資料名(調査事項)
井上英幸 (佐賀市神野町三溝)	佐賀県の植生図、多良山系・黒髪山系の植生図、エビメアヤメ、カネコシダ
市場利哉 (佐賀市長瀬町)	佐賀県の昆虫類(蛾類、トンボ類、セミ類、ハナアブ類、バッタ類)
吉田喜美明 (唐津市菜畑)	日本の蝶(オオムラサキ、オオゴマダラ)、世界の蝶(トリバネチョウ、ヨウトウキシタアゲハ)
高橋篤美 (東松浦郡浜玉町横田上)	オサムシ科(オオオサムシ、ツクシオサムシ、ヒメオサムシ、カラツオサムシ、セアカオサムシ)
広川典範 (佐賀市西田代町2丁目)	カミキリムシ科(ミドリカミキリ、オオヒメハナカミキリ)、クワガタムシ科(ミヤマクワガタ、オオクワガタ)
脇部秀彦 (小城郡小城町畠田)	ムカシトンボ
伊万里農林高校 (伊万里市新天町坂口)	林業後継者教育
若楠会館 (佐賀市城内1丁目)	樟の樹幹円盤
緑化推進委員会 (佐賀市城内2丁目)	緑化運動、林業振興
伊東健吾 (神埼郡三田川町)	佐賀県産鳥類(カササギ、トラツグミ、ヒヨドリ、ツグミ)
佐賀県工業試験場 (佐賀市鍋島町八戸溝)	木材加工品
脊振山地 (神埼郡脊振村)	スギ・ヒノキ植林、ブナの自然林、キュウシュウコゴメグサ、ツクシコゴメグサ
天山山地 (東松浦郡厳木町)	スギ・ヒノキ植林、シギンカラマツ、タンナトリカブト、イヌシデ
多良山地 (藤津郡多良町)	スギ・ヒノキ植林、アカガシ林、モミ林、チャルメルソウ、ツクシコウモリソウ
黒髪山地 (杵島郡山内町)	スギ・ヒノキ植林、イシ・カシ林、カネコシダ、クロカミシライトソウ、ヒレフリカラマツ
樺原湿地 (東松浦郡七山村)	イワオ杉発祥地、アカマツ林、サギソウ、トキソウ
虹の松原 (唐津市鏡・東松浦郡浜玉町)	クロマツ林、海岸植物(オオナワシログミ、カワラヨモギ、ハマツボ、ハマタマボウキ)
吉野家 (厳木町浪瀬1098)	斧、鎌等の柄木
嘉村家 (富士町上無津呂)	胴引き(木馬・牛鞍)
盛田家 (七山村大字白木570)	胴引き関係用具(トビ・カン・カン打ち斧・カタ木)
川本家 (七山村野井原)	木挽き関係用具(木挽き鋸・横びき鋸・カン・マサカリ・ヤ・根切り斧・カスガイ)
牟田家 (東脊振村横田)	木蠟製作用具(大ガマ・中ガマ・モネ・櫛ちぎり袋・ブリコ・チキリ・うめ皿・蠟皿・木臼)

調査先 (所) 在地)	主な資料名(調査事項)
芹田家 (久保泉町大字川久保)	椿油しづり用具(木臼・蒸し機・フネ・オシメ・ヤ・ヨコツツ)
森住銘木店 (七山村大字馬川)	磨き丸太
限本木工所 (唐津市八百屋町1556)	独楽製作(製作用具一式)、独楽製品
原田製樽所 (久保田町徳万)	桶・樽製作(製作用具一式)、桶・樽製品
栗山商店 (武雄市西川登町神六)	竹細工製作(製作用具一式)、竹細工製品
小川鍛冶屋 (脊振村広瀬)	鍛冶製作(製作用具一式)、鍛冶製品(山樵用具)
杉彫 (鹿島市古枝1221-1)	浮立面製作(製作用具一式)、浮立面(男面・女面)
佐賀製蠟株式会社 (神埼郡上峰村大字堤)	製蠟(生蠟・晒蠟)
中里太郎右衛門窯 (唐津市町田5-2-10)	登窯(薪)
佐賀県林業試験場 (佐賀郡大和町池ノ上)	林業関係用具(二人縦引き鋸・二人横引き鋸・牛のわらじ・木馬)、木炭サンプル(60種)
中央高等職業訓練校 (佐賀市神園1-5)	伝統木造建築模型・継手・仕口
伊万里有線テレビ生活協同組合 (伊万里市立花町通谷1542-21)	山の神祭り(つう渡し)・ビデオテープ
三島刃物製作所 (佐賀市大財5-3-20)	鍛冶用具・鍛冶製品
富士町森林組合 (佐賀郡富士町古湯)	林業(植林・下草刈り・除伐・枝打ち・間伐・皆伐・搬出)、山の神
七山村森林組合 (東松浦郡七山村大字仁部105)	〃
杉山家 (富士町杉山山口1353)	狩猟(わな)
川谷家 (佐賀市佐大前)	製蠟
徳川家 (神埼郡脊振村一谷)	炭焼き
今岳神社 (伊万里市大坪町古賀)	山の神祭り(12月14日)
川原家 (伊万里市大坪町上古賀)	山の神祭り(つう渡し) 12月14日

資料の概要

—博物館—

1. 昭和61年度購入資料

(1) 自然科学資料

資料名	規格	数量	備考
郷土の春の森林	模型 120×200×230cm	1	
森林のはたらき	模型 120×180×180cm	1	

(2) 考古資料

資料名	規格	数量	備考
木製杓子 (複製品)	長 25.5cm	1	(原品)唐津市菜畠遺跡出土品
木製モリ (〃)	長 20.7cm	1	〃
骨製鏃 (〃)	長 5.5cm	1	〃
猪牙製単式釣針 (〃)	長 2 cm	1	〃
猪牙製結合式釣針・針部 (〃)	長 7.5cm	1	〃
鹿角製結合式釣針・軸部 (〃)	長 8.9cm	1	〃
骨製笄 (〃)	長 11.6cm	1	〃
経筒・経巻 (〃)	長 26.5cm 径 9.3cm	1	(原品)脊振村腹巻・脊振山頂出土品

(3) 歴史資料

資料名	作 者	数量	形 状	備 考
佐賀藩諸岡家砲術資料	諸岡 正直 他	167	書冊他	
農耕図屏風	長谷川雪旦	1	紙本着色・六曲屏風装 161.3×376.0cm	天保9年(1838)
山水図押絵貼屏風	高柳 快堂	1	絹本墨画・六曲屏風装 136.5×43.5cm	明治21年(1888)
鍋島段通 花唐草文		1	木綿糸・手織・一疊物段通 187.5×94.0cm	明治～大正
鍋島段通 幾何学文		1	木綿糸・手織・一疊物段通 184.0×92.0cm	明治～大正

2. 昭和61年度寄贈資料

(1) 自然科学資料

資料名	数 量	寄 贈 者
佐賀県産蝶類標本	5	唐津市西唐津1丁目 溝上 誠司
佐賀県産鳥類剥製標本	20	神埼郡三田川町大字豆田 伊東 健吾

(2) 歴史資料

資料名	数 量	寄 贈 者
佐賀藩士藤川正信資料	6	佐賀市伊勢町1-17 藤川 弥八
佐賀藩士牟田家砲術資料	52	千葉県柏市旭町6-1-42 牟田 武彦
精煉方銘入り德利	1	佐賀市道祖元町41 山口 豊
人物図(成富独幽)	1	福岡市南区下日佐749-25 富岡 フミ
人物・山水図(古川松根)	1	〃
美人図(池田筠斎)	1	〃
一行書(古賀侗庵)	1	福岡市南区下日佐749-25 富岡 フミ

二行書（古賀茶渓）	1	福岡市南区下日佐749-25	富岡 フミ
十行書（武富坪南）	1	〃	
蘭竹図屏風（草場佩川）	1	〃	
竹梅図屏風（草場船山）	1	〃	
稻葉図および書（草場佩川・武富坪南）	1	〃	
一行書（尾崎行雄）	1	〃	
鍋島更紗掛軸 玉堂富貴図	1	〃	
砲 弾	5	佐賀郡川副町早津江	大坪 常晴
古賀家資料古賀精里画像他	48	福岡市早良区飯倉2丁目	古賀淑子・義
古賀家印章	26	〃	

(3) 民俗資料

資料名	数量	寄贈者
埼玉の民俗音楽（レコード）	1	埼玉県岩槻市加倉 埼玉県民俗文化センター

3. 昭和61年度寄託資料

資料名	数量	寄託者
東妙寺古図	1	神埼郡三田川町大字田手1728 東妙寺

4. 資料の貸出状況

資料名	貸出先	貸出・返納	目的(会場)
考古資料（鐸形土製品など）14件	北九州私立考古博物館	61. 7. 21 61. 9. 9	青銅器発掘展 (北九州市立考古博物館)
肥前名護屋城図屏風 佐賀県重要文化財	M O A 美術館	61. 7. 22 61. 9. 4	太閤展 (MOA美術館)
細形銅戈2口・中広形銅矛2口 北茂安町東尾出土品他	島根県教育文化事業団	61. 9. 11 61. 11. 19	鐸と剣と矛展 (八雲立つ風土記の丘)
土器・植物遺体(ドングリ類など) 坂の下遺跡出土	若狭歴史民俗資料館	61. 9. 17 61. 11. 27	日本海縄文文化展 (若狭歴史民俗資料館)
考古資料（丸山遺跡出土土器など） 24件57点	福岡市教育委員会	61. 10. 2 61. 12. 2	早良王墓とその時代展 (福岡市立歴史資料館)
経筒・秋草双鳥鏡 山崎経塚出土品	福井県立博物館	61. 10. 8 61. 12. 17	古鏡の美展 (福井県立博物館)
肥前名護屋城図屏風（模写）など 3件7点	鎮西町	61. 11. 21 61. 11. 25	大閤ミニ資料展
流雲文縁方格規矩四神鏡（重文） 唐津市桜馬場出土品	大分県教育委員会	61. 12. 23 62. 2. 2	豊の国創世紀展 (大分県立芸術会館)
絹本着色見心来復像・以亨得謙像 鳥栖市万歳寺寄託	文化庁	62. 1. 20	重要文化財指定調査のため
絹本着色金立神社縁起図 佐賀市金立神社寄託	大阪市立博物館	62. 3. 10	社寺参詣曼荼羅展 (大阪市立博物館)

5 昭和61年度購入および寄贈図書

(1) 購入図書

書名	発行所	書名	発行所
国史大辞典(第7巻)	吉川弘文館	原色昆虫大図鑑(第1・2巻)	北隆館
日本のシダ植物図鑑(第1~5巻)	東大出版		

(2) 寄贈図書

書名	寄贈者	書名	寄贈者
穂別町立博物館研究報告No.3	穂別町立博物館	福島県双葉地域の多賀層群より 産する微化石調査報告	福島県立博物館
穂別町立博物館収蔵資料目録Ⅰ	"	第13集富作遺跡発掘調査概報	"
上士幌町ひがし大雪博物館研究 報告No.8	上士幌町ひがし大雪博物館	第14集山村風俗調査報告	"
北海道開拓記念館 研究年報第14号	北海道開拓記念館	第15集安積開拓と安積疏水総合 調査報告	"
" 調査報告第25号	"	福島県立博物館要覧	"
" 一括目録第18集	"	福島県立美術館年報昭和59・60 年度	福島県立美術館
" 分類目録第6号	"	多賀城とその周辺展	東北歴史資料館
" 特展目録第28回	"	東北歴史資料館年報昭和60年度	"
" '86要覧	"	東北歴史資料館文書目録第3・4 集	"
北海道立文書館所蔵目録Ⅰ	北海道立文書館	馬場壇A遺跡Ⅰ	"
北海道立文書館所蔵公文書件名 目録	"	赤羽台・袋低地・舟渡	東北新幹線赤羽地区 遺跡調査会
北海道立文書館史料集第二 (制旨録(一)、裏裁録(二))	"	ほりだされた下野の古代	栃木県立博物館
苫小牧地方の有形文化財 地図にみる苫小牧の発展	苫小牧市博物館	群馬県立歴史博物館年報No.7	群馬県立歴史博物館
苫小牧の馬たち展	"	郷土人形の世界	"
苫小牧市博物館年報	"	下触牛伏遺跡	群馬県埋蔵文化財 調査事業団
" 常設展示資料目録	"	荒砥北原遺跡・今井神社古墳群 荒砥青柳遺跡	"
市立旭川郷土博物館研究報告 No.16	市立旭川郷土博物館	下佐野遺跡II地域	"
新札幌市史第7巻「史料編2」	札幌市教育委員会	清里・長久保遺跡	"
根室市博物館開設準備室紀要 No.1	根室市博物館開設 準備室	利根川を下る —歴史をさかのばる・図録	"
八戸市博物館年報第2号	八戸市博物館	元島名B吹庄遺跡	"
" 研究紀要第2号	"	群馬県埋蔵文化財調査事業団研 究紀要3	"
市立函館博物館蔵品目録5	市立函館博物館	関越自動車道(新潟線)地域・埋蔵 文化財発掘調査報告書第10集	群馬県教育委員会 群馬県埋蔵文化財 調査事業団
下北半島の自然	青森県立郷土館	群馬県埋蔵文化財調査センター 年報5	群馬県埋蔵文化財 調査センター
岩手県立博物館年報昭和60年度	岩手県立博物館	群馬県立歴史博物館紀要	群馬県立歴史博物館
北上山地の恐竜アンモナイト・ 図録	"	" 所蔵資料目録 " 調査報告書	"
岩手県立博物館収蔵資料目録	岩手県立博物館	埼玉県立博物館紀要12	埼玉県立博物館
" 研究報告No.4	"	海上之邦 おきなわ・図録	"
水の文化・図録	石巻文化センター	埼玉県立自然博物館研究報告	埼玉県立自然博物 館
仙台市博物館展示・図録	仙台市博物館	浦和市郷土博物館研究調査報告 第13号	浦和市立郷土博物 館
秋田県立博物館研究報告第11号	秋田県立博物館		

書名	発行所	書名	発行所
千葉県文化財センター研究紀要 10	千葉県文化財センター	大田の職人	大田区立郷土博物館
日本考古学における層位論の基礎的研究	千葉大学文学部	なつかしの昔一蓄音機・図録	〃
市立市川考古博物館年報	市立市川考古博物館	大田区立郷土博物館概要	〃
市川の縄文土器	〃	横浜市峯遺跡群発掘調査報告書	玉川文化財研究所
市立市川考古博物館展示解説	〃	横浜市竹鼻遺跡発掘調査報告書	〃
市立市川考古博物館年報	〃	横浜市東方横穴墓群第2次調査 発掘報告書	〃
昭和61年度佐倉市埋蔵文化財緊急調査報告	佐倉市教育委員会	東京都寺谷津遺跡群発掘調査報告書	〃
埋蔵文化財調査報告28	神奈川県教育庁	川崎市内における横穴墓群の調査	〃
足柄の民俗(III)	神奈川県立博物館	(八王子市)子安3丁目遺跡発掘調査報告書	〃
神奈川県立博物館発掘調査報告書第15号	〃	(横浜市)花田園遺跡発掘調査報告書	〃
〃	〃	長岡藩主牧野家墓所発掘調査報告書	港区立港郷土資料館
第16号	神奈川県立博物館年報昭和60年度	郵政省板倉分館構内遺跡	〃
神奈川県立博物館年報昭和60年度	神奈川県立埋蔵文化財センター	八王子市郷土資料館年報昭和57・58年度	八王子市郷土資料館
神奈川県立埋蔵文化財センター年報5	〃	発掘が語る日本史	新人物往来社
田名稻荷山遺跡・調査の概要	神奈川県立金沢文庫	最新発見の主要遺跡(別冊付録)	〃
東耕地遺跡	神奈川県立自然保護センター	発掘が語る日本史	〃
代官山遺跡	神奈川大学日本常民文化研究所	文明開化の馬文化展	根岸競馬記念公苑
金沢文庫資料全書 第8巻	〃	古代文化馬形の謎・図録	〃
調査研究報告3	横須賀市博物館	日本婦人洋装史	吉川弘文館
神奈川大学日本常民文化研究所要覧1986	〃	書家日誌1987年報	美術年鑑社
仕事着(東日本編)	横須賀市博物館	和箪笥百選	家具の博物館
横須賀市博物館研究報告	〃	特別展 紅毛文化・図録	たばこと塩の博物館
〃 資料集	川崎市青少年科学館	紅毛文化・研究紀要第2号	〃
川崎市青少年科学館年報 昭和59年度	〃	日本の公共事業	月刊政策政治月報社
昭和60年度	〃	第二鯨学事始	日本捕鯨協会
市民の手による川崎市域自然調査の報告	平塚市博物館	杉野学園	杉野学園衣装博物館
生地緑地の自然観察I	〃	大久保利通・木戸孝允・伊藤博文特別展示目録	憲政記念館
王子台遺跡発掘調査報告書	東京国立博物館	新日本植物史(顕花編)	至文堂
湘南植物誌II	〃	正倉院年報第8号	宮内庁正倉院事務所
平塚市博物館年報	都立府中病院内遺跡調査会	日野市栄町遺跡調査概報II	日野市栄町遺跡調査会
東京国立博物館紀要第20号	〃	美術史論叢2	東京大学文学部
法隆寺献納宝物特別調査概報VI	〃	博物館実習報告第2号	お茶の水女子大学学芸員課程
東京国立博物館紀要第21号	〃	筑波大学芸術年報1986	筑波大学
武藏国分寺遺跡発掘調査報告書	〃	明治大学学芸員養成課程年報	明治大学
武藏台遺跡I	東京都教育庁文化課埋蔵文化財係	法政大学多摩校地遺跡群I	法政大学
上野原遺跡	東京都埋蔵文化財センター	〃 II	〃
学芸研究紀要 第3集	東京都町田市役所	日本大学文理学部研究紀要No21 物見出遺跡1986	日本大学文理学部
多摩ニュータウン遺跡昭和59年度	〃	北室C遺跡 明神堂遺跡	国学院大学
町田市仏像調査報告書(概報)	〃	余山貝塚資料図譜	〃

書名	発行所	書名	発行所
国学院大学考古資料館 紀要第2号	国学院大学考古学 資料館	長野県埋蔵文化財センター 要覧	長野県埋蔵文化財 センター
国学院大学博物館学 紀要第10巻	国学院大学博物館 学研究室	農家とくらし(調査研究の記録) のりもの今昔・図録	長野市立博物館 〃
国学院大学史学研究集録第11号	国学院大学 大島町教育委員会	灰谷川I	静岡県埋蔵文化財 調査研究所
下高洞遺跡	〃	茶木畠遺跡	〃
鉄砲場岩陰遺跡	円福寺西方遺跡調 査会	宮下遺跡	〃
五段田遺跡	町田町立博物館	静岡県埋蔵文化財調査研究所 研究年報1	〃
和鏡	文化庁	静岡県埋蔵文化財調査報告 第3・4集	〃
巫女の習俗II	国立歴史民俗博物館	江原素六旧蔵明治・大正・名工 書簡集	沼津市明治資料館
国立歴史民俗博物館概要1983 〃 要覧'86	〃	愛知県陶磁資料館研究紀要5	愛知県陶磁資料館
〃 研究報告第8集	〃	名古屋大学文学部研究論集 XCV 史学32	名古屋大学文学部
〃 研究報告第9・10・11集	〃	考古資料ソフラックス写真集第 1集	〃
国立民族学博物館研究報告 別冊No.3	国立民族学博物館	名古屋市博物館年報No.9	名古屋市博物館
〃 別冊4号	〃	豊橋市地下資源館年報	豊橋市地下資源館
〃 調査報告集7	〃	縄文真珠5500年の謎	真珠博物館 〃
〃 研究報告10巻4号	〃	栗東町久徳家墓地遺跡発掘調査 報告書	滋賀県教育委員会 滋賀県文化財保護 協会
〃 研究報告11巻2号	〃	埋もれた文化財の話	滋賀県埋蔵文化 センター
〃 研究報告	〃	滋賀県立琵琶湖文化館研究紀要 第4号	滋賀県立琵琶湖文化 館
〃 研究報告別冊	日本博物館協会	第5号	〃
昭和61年度会員名簿	〃	京都国立博物館概要	京都国立博物館
第33回全国博物館大会報告書	〃	京都社寺調査報告VI	〃
博物館指導者研究協議会報告書	宮内庁書陵部	学叢 第8号	京都大学埋蔵文化 財研究センター
書陵部紀要第38号	富山市科学文化センター	京都大学構内遺跡調査研究年報	〃
富山市科学文化センター研究報 告No.9	石川県立歴史博物 館	昭和59年度	京都府埋蔵文化財 調査研究センター
石川県立歴史博物館要覧	石川県立郷土博物 館	京都府埋蔵文化財情報第21号	京都府立総合資料 館
前田土佐守家文書目録	金沢大学文学部考 古学研究室	京都府立総合資料館紀要No.14	京都府立総合資料 館
金沢城の発掘(報告)	〃	京都市埋蔵文化財調査概要	京都都市埋蔵文化 財研究所
金沢考古 第12号	小松市立博物館	平安京跡発掘資料選(二)	〃
小松市立博物館所蔵品目録III	〃	美術教育関係収蔵図書目録	京都市立芸術大学 美術教育研究所
小松市立研究紀要 第23集	福井県立博物館	向日市文化資料館研究紀要 よみがえる古代の文字・図録	向日市文化資料館 〃
福井県立博物館年報No.1	〃	博物館学年報	同志社大学博物館 学芸員課程
日本海のおいたち	福井県武生市教育 委員会	嵯峨美術短期大学紀要1986年 丹波国大山荘現況調査報告II	嵯峨美術短期大学 西紀・丹南町教育 委員会
高森遺跡I	若狭歴史民俗資料館		
若狭歴史民俗資料館 要覧	〃		
鳥浜貝塚	長野県埋蔵文化財 センター		
長野県埋蔵文化財センター 年報2			

書名	発行所	書名	発行所
佐堂	大阪文化財センター	相生市・縁ヶ丘窯址群	兵庫県埋蔵文化財調査事務所
龜井北	〃	上板井古墳群	〃
城山	〃	兵庫県立歴史博物館の概要昭和61年度	兵庫県立歴史博物館
龜井	〃	兵庫の絵馬	〃
久宝寺南	〃	豊岡の文化財	〃
山賀	〃	黒川古文化研究所要覧	黒川古文化研究所
貢福寺遺跡	〃	〃 紀要	〃
小坂遺跡	〃	〃 収蔵品目録	〃
丹上遺跡 その1	〃	〃	〃
〃 その2	〃	収蔵品目録第13	奈良県立樞原考古学研究所
松原市觀音寺遺跡	〃	奈良県遺跡調査概報(第1分冊)	
河内の遺宝	〃	能峰遺跡群I (南山編)	〃
滑瀬遺跡(その3)発掘調査	大阪府埋蔵文化財協会	矢部遺跡	〃
境砲遺跡発掘調査報告書	〃	藤ノ木古墳	〃
仏並遺跡 〃	柏原市教育委員会	首子遺跡群発掘調査概報	〃
高井田遺跡I	〃	樞原考古学研究年報12	〃
大県南遺跡	〃	〃	〃
柏原市埋蔵文化財発掘調査概報	〃	紀要考古学論叢11	
大県・大県南遺跡	〃	奈良市埋蔵文化財調査報告書	奈良市教育委員会
鳥坂寺	〃	奈良市埋蔵文化財調査センター	〃
高井田横穴群I	〃	紀要	
明神山茶遺跡分布調査概報II	〃	奈良国立博物館年報昭和59年度	奈良国立博物館
田辺古墳群・墳墓群発掘調査概要	〃	奈良国立文化財研究所年報	奈良国立文化財研究所
芝遺跡寺ノ前地区発掘調査概報	桜井市教育委員会	平城京左京三条二坊六坪発掘調査報告	〃
安信寺遺跡ノビン地区発掘調査概報	〃	平城宮木簡四	〃
桜井市吉備遺跡岡崎地区発掘調査	〃	丹切遺跡発掘調査概要	樫原町教育委員会
湊遺跡14	泉佐野市教育委員会	下城・馬場遺跡	〃
山出遺跡発掘調査報告書	〃	神木坂古墳群調査報告第2集	元興寺文化財研究所
夫婦地遺跡発掘調査報告書	〃	元興寺文化財研究No24	
泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概報VI	〃	大和国古墳墓取調書	由良大和古代文化研究所
豊中市埋蔵文化財発掘調査概要	豊中市教育委員会	飛鳥の石造物・図録	飛鳥資料館
新免遺跡第11次発掘調査概要	〃	島根県立博物館年報昭和60年度	島根県立博物館
服部遺跡発掘調査報告	東大阪市文化財協会	岡山県立博物館研究報告6	岡山県立博物館
神並遺跡I	茨木市教育委員会	〃 年報	〃
宿久庄遺跡発掘調査概要	〃	〃 研究報告7	〃
昭和60年度発掘調査略報	大阪城天守閣	蒜山研究所研究報告第12号	岡山理科大学
大田遺跡発掘調査概報	大阪府立大学	紀要第21号A 自然科学	岡山理科大学図書館
戦国武将甲冑展・図録	大阪大学文学部国史研究室	紀要第21号B 人文・社会科学	〃
大阪府立大学紀要 第34巻	関西大学考古学等資料室	岡山大学津島地区遺跡群の調査II	岡山大学
堅穴式石室の地域性の研究	兵庫県埋蔵文化財調査事務所	第3回特別展 岡山県のチョウ	倉敷市立自然史博物館
関西大学考古学等資料室紀要 第3号	〃	倉敷考古館研究集報第19号	倉敷考古館
ひょうごの遺跡	〃	和歌山市立博物館研究紀要I	和歌山市立博物館
明石城跡II	〃	和歌山県の自然・図録	和歌山県立自然博物館

書名	発行所	書名	発行所
総社市埋蔵文化財調査報告書 3 賀茂学園都市開発整備事業地 (西高屋地区) 内遺跡群 I	総社市教育委員会 広島県埋蔵文化財 調査センター	九州歴史資料館研究論集 II 柿原古墳群	九州歴史資料館 福岡県教育委員会
歳神遺跡群・中出勝負峰墳墓群	〃	豊前国府	〃
青木原遺跡発掘調査報告書	〃	汐井掛原古墳群	〃
大宮遺跡発掘調査報告書兼代地 区II	〃	曲り田遺跡	〃
丑富遺跡発掘調査報告	〃	月の岡古墳	〃
錢神第1・3号古墳発掘調査報 告書	〃	西限土古墳・楠名古墳	〃
ひろしまの遺跡 No24 〃 No26	〃	貴船谷遺跡	〃
広島県立歴史民俗資料館年報昭 和58・59年度	広島県立歴史民俗 資料館	新延大塚古墳	〃
草戸千軒町遺跡	広島県草戸千軒町 遺跡調査研究所	早良王墓とその時代・図録	福岡市立歴史資料館
広島大学総合移転地埋蔵文化財 発掘調査年間V	広島大学	福岡市立歴史資料館研究報告第 10集	〃
山口大学構内遺跡調査研究年報 II、III 〃 IV	山口大学埋蔵文化 財資料館	青柳種信関係資料目録	〃
山口県立山口博物館研究報告 No12	山口博物館	九州歴史資料館年報昭和60年度	九州歴史資料館
綾羅木都遺跡	下関市教育委員会	若杉山の仏教遺跡	〃
梶田舟原・柏原遺跡	〃	立岩周辺遺跡発掘調査報告書 第7集 寺山古墳	飯塚市歴史資料館
秋吉台科学博物館報告第21号	秋吉台科学博物館	唐代古墳壁画と西安碑林拓本展	〃
美弥市歴史民俗資料館調査研究 報告	美弥市歴史民俗資 料館	福岡市の文化財(書跡の典籍・ 古文書)	福岡市教育委員会
瀬戸内海歴史民俗資料館紀要 No.3	瀬戸内海歴史民俗 資料館	柏原遺跡群II	〃
瀬戸内海歴史民俗資料館年報 No.11	〃	博多、高速鉄道関係調査(2)	〃
瀬戸内の漁船・廻船と船大工調 査報告	〃	吉武遺跡I	〃
徳島県博物館紀要 第17集	徳島県博物館	トヨナシ遺跡	〃
若杉山遺跡発掘調査概報 昭和60年度	〃	有田遺跡	〃
徳島県博物館要覧昭和61年度	〃	比恵遺跡	〃
瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化 調査概報 (VII)	香川県教育委員 会・本州四国連絡 橋公園	肥前堀	〃
〃 (III)	〃	今宿五郎江遺跡I	〃
備讃瀬戸の島々	香川県教育委員会	那珂久平遺跡I	〃
香川県自然科学館研究報告 第8巻	香川県自然科学館	羽根戸遺跡	〃
〃	〃	板付周辺遺跡調査報告書 (II)	〃
第9巻	〃	野多目括渡遺跡II	〃
松山市立子規記念博物館年報 4	松山市立子規記念 博物館	藤崎遺跡 III	〃
長目崎古墳群	福岡県教育委員会	〃 IV	〃
小牧西牟田横穴群	〃	有田・小田部・第7集	〃
九州横断自動車道関係埋蔵文化 財調査報告	福岡県教育委員会	原遺跡 2	〃
合の原遺跡	〃	那珂八幡古墳	〃
		吉武高木	〃
		博多 VI	〃
		丸隈山古墳II	〃
		福岡市埋蔵文化財調査報告書 鳥越・七隈古墳群・干隈遺跡	〃
		中畠遺跡・中畠南遺跡	〃
		愛宕遺跡 II	北九州市教育文化 事業団
		長野A遺跡	〃
		北方遺跡	〃
		潤崎遺跡	〃
		守恒遺跡	〃
		瀬戸方遺跡	〃
		障子谷遺跡	〃

書名	発行所	書名	発行所
下賀遺跡	北九州市教育文化事業団	佐賀県有田町山辺田古窯群の調査(遺物編)	有田町教育委員会
埋蔵文化財調査室年報2 昭和59年度	〃	佐賀県有田町山辺田古窯群の調査(遺構編)	〃
郷屋遺跡	〃	有田町史 政治・社会編II	〃
北九州市立考古博物館年報	北九州市立考古博物館	〃 通史編	〃
青銅器发掘展・図録	〃	西有田町史 (上巻)	西有田町役場
北方遺跡	北九州市教育委員会	権現谷窯	伊万里市教育委員会
横隈鍋倉遺跡II	小都市埋蔵文化財調査センター	北方町史 中巻	北方町町史編さん委員会
三沢栗原遺跡V	〃	検見谷遺跡	北茂安町教育委員会
横隈孤塚遺跡IV	〃	第2次塩田町総合計画	塩田町役場
大板井遺跡V	〃	みやこ遺跡	武雄市教育委員会
三国の鼻遺跡II	〃	茂手遺跡	〃
三沢東古賀遺跡	〃	鍋島直紹伝	鍋島直紹顕彰会
津古中勢遺跡	〃	黒井八本松遺跡	千代田町教育委員会
九州文化史研究所紀要No.31	九州大学九州文化史研究施設	町勢要覧 986	鎮西町役場
武雄市廣福護国禅寺調査	九州大学美学研究室	下中村遺跡	三田川町教育委員会
九州産業大学芸術学部研究報告	九州産業大学芸術学部	川井川内遺跡	東彼杵町教育委員会
〃 第17巻	〃	殿崎遺跡	小值賀町教育委員会
東部土地区画整理事業関係	久留米市教育委員会	上原遺跡	長崎県教育委員会
埋蔵文化財調査報告書第5集	〃	殿崎遺跡	〃
筑後國府跡	〃	今福遺跡	〃
久留米市埋蔵文化財調査集報(1)	〃	諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書III	長崎県立美術博物館
上津土星跡	〃	20年のあゆみ昭和40~60年	〃
勝田遺跡 II	筑紫野市教育委員会	長崎県立美術博物館年報	〃
土の浦遺跡	〃	長崎県北松浦地方の文化	〃
御笠地区遺跡	〃	ふるさと百科郷土資料件名目録	佐世保市立図書館
大野城市の文化財 第17集	大野城市教育委員会	17世紀のオランダ・ライデン市民の生活・図録	オランダ村博物館
〃 第18集	〃	神水遺跡II	熊本県教育委員会
上園遺跡 I	第18集	伊坂土原遺跡・石碑遺跡	〃
仲島遺跡 V	第17集	熊本県旧石器時代調査報告書(研究活動報告19) 玉城遺跡	〃
春日地区遺跡群	春日市教育委員会	手広遺跡(概報) 研究活動報告20	熊本大学文学部考古学研究室
太宰府天満宮連歌資料と研究III	太宰府天満宮文化研究所	史跡人吉城跡II	〃
佐賀県史料集成古文書編 第27巻	佐賀県立図書館	湯の口横穴群	人吉市教育委員会
佐賀県の文化財	佐賀県教育委員会	西洋のキリストン遺物展(図録)	山鹿市教育委員会
久保泉丸山遺跡	〃	大江田	本渡市立天草切支丹館
研究論文集 第34集 第1号(I)	佐賀大学教育学部	宮崎県総合博物館研究紀要No.11	菊水町教育委員会
〃 第34集 第1号(II)	〃	宮崎県総合博物館	宮崎県総合博物館
〃 第33集 第I号 I・II	〃	収蔵資料目録 動物・地質編	〃
〃 第33集 第II号 I・II	〃	〃 植物編	〃
佐賀市市勢要覧 昭和60年度	佐賀市役所	宮崎県総合博物館年報昭和60年度	〃
伊岐佐遺跡群	相知町教育委員会		

書名	発行所	書名	発行所
日向山村のくらしと照葉樹林文化	宮崎県総合博物館	釜山徳川洞古墳遺蹟調査報告第一冊	釜山直轄市立博物館
吉村第二土地区画製備事業に伴なう地域文化財発掘調査報告書	宮崎市教育委員会	釜山市民所蔵朝鮮時代書画特別展図録	〃
宮崎学園都市埋蔵文化財発掘調査概報（V）	宮崎県教育委員会	釜山老圃洞古墳	〃
宮崎の古墳文化	宮崎市教育委員会	国松登展・図録	北海道立近代美術館
蓮ヶ池横穴群	〃	サントリー美術館所蔵品展・図録	〃
豊の国創世紀展・図録	大分県教育委員会	エルミタージュ美術館所蔵品展・図録	〃
大分市の文化財	大分市教育委員会	第2回世界現代美術ガラス展・図録	〃
大分県旧石器時代遺跡分布図	別府大学附属博物館	北海道の美術'86	〃
別府大学附属博物館展示資料図録	〃	三岸好太郎作品選	北海道立三岸好太郎美術館
駅館川流域遺跡群発掘調査報告書	宇佐市教育委員会	月領・雪蕉・図録	岩手県立博物館
宇佐風土記の丘歴史民俗資料館年報	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館	日本現代美術秀作展・図録	八戸市美術館
鬼塚古墳	大分県国見町教育委員会	宮城県美術館所蔵作品総目録	宮城県美術館
賀来飛霞関係資料調査報告書	大分県安心院町教育委員会	現代日本の美術・戦後生まれの作家たち・図録	〃
大分市史（上）	大分市	昭和60年度 年報	〃
駒方古屋遺跡	別府大学附属博物館	研究紀要	〃
広瀬井手日記（一）	〃	普及活動の記録	〃
舞田原	犬飼町教育委員会	福島県立博物館常設展示目録	福島県立博物館
鹿児島の路傍300種解説集（離島編）	鹿児島県立博物館	武家の文化・図録	〃
鹿児島県立博物館研究報告第5号	〃	栃木県立美術館紀要No.11	栃木県立美術館
博物館要覧 61年度	〃	群馬県立近代美術館年報 昭和60年度	群馬県立近代美術館
鹿児島県埋蔵文化財調査報告書 No.37・No.38・No.39	鹿児島県教育委員会	要覧1986	〃
大熊遺跡第5・6次発掘調査報告書	鹿児島県歴史資料センター黎明館	埼玉県立近代美術館年報	埼玉県立近代美術館
鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報I	鹿児島大学	武藏ゆかりの武器・武具・図録	埼玉県立博物館
座喜味城跡 環境整備事業報告	沖縄県読谷村教育委員会	千葉県立美術館年報	千葉県立美術館
〃 環境整備事業図面集	〃	京都の日本画・図録	東京国立近代美術館
〃 平面図	〃	1960年代の工芸・図録	〃
読谷村立歴史民俗資料館年報 No.11	読谷村立歴史民俗資料館	写実の系譜II 大正期の細密描写図録	〃
読谷村立歴史民俗資料館紀要 No.10	〃	松本俊介展・図録	〃
松菊里II	韓国國立中央博物館	近代日本の美術・図録	〃
陝川ダム水没地区発掘調査報告11 陝川竹里廢寺址	国立晋州博物館	新収蔵作品展・図録	〃
百濟研究 No.16	忠南大学校	東京国立近代美術館要覧	〃
蔚州良東遺跡調査概報	釜山大学校博物館	〃 年報 昭和60年	〃
金海禮安里古墳群 I 本文	〃	東京都美術館紀要 No.10	東京都美術館
金海禮安里古墳群 I 図面・図版	釜山大学校博物館	〃 要覧昭和61年度	〃
釜山直轄市立博物館 年報	釜山直轄市立博物館	日本画の前衛たち・図録	〃
		ヘンリームーア展・図録	〃
		岡本文庫 目録	〃
		東京都美術館要覧	〃
		菊畑茂久馬・図録	東京画廊
		田中栄作・図録	〃

書名	発行所	書名	発行所
李禹煥・図録	東京画廊	若狭の仏教絵画・図録	若狭歴史民俗資料館
赤穴宏展・図録	〃	ミレー展・ボストン美術館蔵開催記念シンポジウム報告書	山梨県立美術館
小野木学の世界・図録	練馬区立美術館	岐阜県美術館年報	岐阜県美術館
鳥海青児展・図録	〃	静岡県立美術館・図書資料目録	静岡県立美術館
日本美術年鑑 昭和59年度	東京国立文化財研究所	〃 館蔵品目録	〃
世田谷美術展(開館記念)図録	世田谷美術館	〃 要覧	〃
版画事典	東京書籍	〃 紀要No.4	〃
東京芸術大学美術学部紀要No.21	東京芸術大学美術学部	ダリッチ美術展・図録	〃
多摩美術大学50年史	多摩美術大学	近代日本の洋画と西洋・図録	静岡美術館
李朝生活画	多摩芸術大学	近代日本画の巨匠たち・図録	M O A 美術館
武蔵野美術大学研究紀要No.16	武蔵野美術大学	近代日本の木版画・図録	〃
多摩における暦の世界・図録	八王子市郷土博物館	葛飾北斎富嶽三十六景・図録	〃
東美オークション・図録	東京美術商協同組合	安藤広重東海道五十三次・図録	〃
現代女流美術展	上野の森美術館	浮世絵版画・図録	〃
岡部富生展・図録	東京佐賀町エキビットスペース	名品図録中国絵画・日本絵画編	〃
全国美術館博物館所蔵美術品目録(版画編)	文化庁	〃 中国陶磁器編	〃
87卒業創形美術学校・図録	創形美術学校	〃 書籍・彫刻・漆工・金工編	〃
春の院展全作品集	日本美術院	〃 総合編	〃
院展作品集	〃	大閏展・図録	〃
諸員名簿	〃	近世の備前焼・図録	愛知県陶磁資料館
近代日本画の名作・図録	全国美術館会議	森芳雄展・図録	名古屋画廊
鹿島美術財団年報	鹿島美術財団	近世のあけぼの・図録	名古屋市博物館
二科画集	二科会	海北友松・図録	滋賀県立琵琶湖文化館
二科70年史 1914~1943 1946~1984	(社団法人)二科会	郭徳俊・図録	京都国際芸術センター
P E N N ・ 図録	国立国際美術館	社寺參詣曼荼羅・図録	大阪市立博物館
写生の系譜 I 洋風表現の導入	〃	精華拾遺一中国古陶磁	大阪造船所
浜口陽三・図録	〃	朱塗「根来」その用と美・図録	堺市博物館
ヴァン・ゴッホ展・図録	〃	武家の装い展・図録	大阪城天守閣特別事業委員会
国立国際美術館紀要No.2 年報	〃	兵庫県立近代美術館年報	兵庫県立近代美術館
巨匠ブルーデル展・図録	〃	加古川の舟運	兵庫県立歴史博物館
国立西洋美術館年報No.18	国立西洋美術館	正倉院展・図録	奈良国立博物館
ゴッホ展・図録	〃	平安仏画―日本美の創成一	〃
近世ヨーロッパ素描名作展・図録	〃	奈良県立美術館年報昭和59年度	奈良県立美術館
点描の画家たち・図録	〃	〃 紀要No.2	〃
近世の小袖意匠・図録	国立歴史民俗博物館	〃 藏品図録第6集(染織編)	〃
〃	〃	日本の古窯・図録	岡山県立博物館
丹波コレクション版画図録 I (神奈川県内東海道宿駅編)	神奈川県立博物館	岡山市オリエント美術館研究紀要5	岡山市オリエント美術館
中世・近世・近代美術関係資料目録	〃	美術資料目録石谷コレクション	鳥取県立博物館
明治の宮廷画家・五姓田義松図録	〃	雲谷派の系譜・図録	山口県立美術館
石川県立美術館 年報	石川県立美術館	下関市立美術館年報	下関市立美術館
		植木茂展・図録	下関市立美術館
		松山藩絵師・図録	松山市立子規記念博物館

書名	発行所	書名	発行所
芭蕉・蕪村・子規	松山市立子規記念博物館	ブリヂストン美術館名作展・図録	ブリヂストン美術館
徳島県立近代美術館収集作品展図録	徳島県立近代美術館	前島密通墨集	通信博物館
高島野十郎・図録	福岡県立美術館	萩谷巖画集	日動出版部
'87九州現代美術創造の変革展図録	"	朝倉彫塑館の記録・図録	朝倉彫塑館
筑前国陶高取焼展・図録	福岡市美術館	大潮会50周年記念大潮展	大潮会事務所
アジア現代美術展2	"	化粧文化	ポーラ文化研究所
初期鍋島と色鍋島	古伊万里・鍋島研究所	水彩連盟第45回記念展画集	水彩連盟事務所
黄檗美術展・図録	長崎市立博物館	日韓作家20人展・図録	日韓作家20人展実行委員会
寒巣派の歴史と美術・図録	熊本県立美術館	日本美術館10 九州・沖縄	ぎょうせい
熊本県立美術館年報	"	田口雅巳・日本画新作展・図録	東邦画廊
九州青年美術公募展・図録	大牟田市教育委員会	近代日本画・洋画作品展・図録	思文閣ロイヤル画廊
八幡大菩薩の世界・図録	大分県宇佐風土記の丘歴史民俗資料館	クリスト展・図録	佐谷画廊
豊後南画展	大分県立芸術会館	荒川修作展・図録	"
南海の貿易陶磁展・図録	別府近鉄百貨店	山田正亮新作展・図録	"
都城市美展あゆみ33年	都城市立美術館	ムンク版画名作展・図録	フジカワ画廊
鹿児島市立美術館年報	鹿児島市立美術館	現役画家による祝展・図録	"
有馬生馬・東郷青児・山口長男・図録	"	20世紀の巨匠たち展・図録	"
企画特別展 田の神・図録	鹿児島県歴史資料センター黎明館	森本仁平展・図録	フジキ画廊
黒田清輝展・図録	読売新聞社	深井隆展・図録	ギャラリー山口
中山忠彦展・図録	"	小松崎広子展・図録	"
日展回顧展・図録	"	秋山陽展・図録	I N A X ギャラリー
近代絵画の展開	"	芦亭根展・図録	"
神津港人画集	信濃毎日新聞社	フランス絵画名作展	ギャラリーアート
龍村平蔵・織の美展	朝日新聞社	日本のバーバード・ウェール展・図録	ポイント
古九谷・古伊万里シンポジウム	朝日新聞西部本社	パリを描く平川勇・図録	ギャラリーグモント
中里無庵一炎の生涯	佐賀新聞社	西久保翠丘の墨象・図録	山羽利男
浮世絵名作展・図録	"	田村孝之介画集	西久保翠丘
日展作品展・図録	日展	中村直彦・能画遺作集	田村孝之介
桂ゆき展・図録	西武百貨店	小寺健吉画集	中村保雄
NAKA N I S H I ・図録	"	第10回傳承工芸展作品目録	小寺澄子
敦煌壁画展・図録	恒文社	朝鮮時代書画特別展	釜山直轄市立博物館
肥前陶磁史考	青湖社		"
百萬人のコレクションNo.8	東洋総企		
清水九兵衛展・図録	大雅堂		
旺玄展・目録	旺玄会		
光風会展作品集	光風会		
大調和展画集	大調和会		
受賞作品集第17回	東レ科学振興会		
行動美術展作品集	行動美術協会		
日本現代工芸美術	現代工芸美術家協会		
第36回モダンアート展・図録	モダンアート協会		
伊達政宗・図説	河出書房新社		

茶室「清恵庵」の管理と運営の概況

1 茶室の規模および施設

茶室「清恵庵」は昭和48年10月郷土出身の実業家故市村清氏のご遺志により、同夫人幸恵氏より本県に寄贈されたもので、今年で14年目を迎える。利用の傾向としては普及が広く一般に渗透し、県内、県外の茶道各流派のグループによる利用や、各種団体による茶会など幅広く利用された。

設計者 堀口捨己 東京都大田区山王4-6-5

早川正夫 東京都港区青山5-9-12

アイザワビル

構造 木造平家建寄棟造り

規模 床面積 57.35m²

2 茶室の利用状況

茶室「清恵庵」の利用については、14年目に入り県内はもとより県外にも広く周知され、好評を得ている。

今年度は、各流の茶道グループ、婦人学級、青年団、学校などの団体あるいは、茶道愛好会など利用者の幅もさらに広まり、社会教育、学校教育の一環として広く利用された。

月別にみた利用状況は次のとおりである。

昭和61年度			
月	利用団体数	利用者数	見学者数
4	6	100	24
5	1	250	20
6	2	64	8
7	1	6	3
8	0	0	1
9	2	20	3
10	2	63	36
11	2	77	47
12	0	0	10
1	4	90	0
2	1	24	3
3	0	0	1
計	21	694	156

3 茶道具備品

(1) 昭和61年度末の概況は次のとおりである。

191点。

掛物 淡々斎宗室、希斎宗有、大徳寺桃林の書、

村瀬玄妙の書、売茶翁の二行書、千宗佐、千代尼

花入 胡銅、朝鮮唐津「中里重利作」、黒牟田焼「丸田正美作」、小山路焼「江口勝美作」、大川内焼青磁「小笠原崖作」、備前焼、竹花入「生野祥雲斎作」、竹一重切花入「宗陵作」、有馬千鳥籠花入、有馬ひさご籠花入「昭竹斎作」、青磁鶴首花入「小笠原崖作」

香合・香炉 「12代今泉今右衛門作」、「井上萬二作」、黒牟田焼「丸田正美作」、「宗祥作」、菊花書詰蒔絵卵香合「助市作」、「13代今泉今右衛門作」、「源右衛門作」

茶碗 唐津奥高麗「中里無庵作」、絵唐津・唐津刷毛目「13代中里太郎右衛門作」、黒牟田焼「丸田正美作」、小山路焼「江口勝美作」、大川内焼青磁「小笠原崖作」、青磁「中島宏作」、唐津井戸・唐津皮鯨茶碗「中里重利作」、白磁茶碗「初代忠右衛門作」、黒楽茶碗「小川長榮作」、志野茶碗「荒川豊蔵作」、支那焼、高麗斗々屋「千漢鳳作」

水指 信楽焼「高橋栄斎作」、朝鮮唐津「中里重利作」、小山路焼「江口勝美作」、染付「12代今泉今右衛門作」、高麗「千漢鳳作」

薄茶器 沈金棗「安村稔作」

濃茶器 13代酒井田柿右衛門作

茶杓 宗泰作

風炉 利休面取風炉、切合唐銅風炉、合金面取風炉、鬼面共耳風炉

釜 切合釜・竹紋縁口釜「松寿作」、筋入炉釜、菊桐地紋炉釜、雲竜釜「高橋敬典作」、尻張釜「高橋敬典作」、鬼面共耳風炉釜「横倉嘉山作」

棚 竹台子、桐丸卓、桑小卓、真塗長坂

火入 染付「12代今泉今右衛門作」

菓子器 唐津焼「13代太郎右衛門作」、黒牟田焼「丸田正美作」、小山路焼「江口勝美作」、青磁「中島宏作」、現川焼

建水 不審庵伝来写「11代中川淨益作」、黒牟田焼「丸田正美作」、小山路焼「江口勝美作」、唐銅

風炉先屏風 (秋草蒔絵)

炉縁 高台寺蒔絵「柴田利雄作」

曲湯桶、置炉、瓶掛、蒟蒻塗四方盆、茶托と蓋、茶碾、茶壺

昭和61年度

佐賀県立美術館

月 1 日迄)	全日写連佐賀県本部展(3月15日迄)
3月 3 日 金子剛と101人展(3月 8 日迄)	3月25日 第9回二紀佐賀グループ展(3月29日迄)
3月12日 昭和61年度新収蔵品展(4月 5 日迄)	

規模および施設

構 造	鉄筋コンクリート造	一階建	一部二階建	
規 模	敷地面積	7,986m ²		
	建築面積	3,644m ²		
	延床面積	4,238m ²		
施 設	1号展示室	204m ²	倉 庫	5m ²
	2号展示室	230m ²	ホ ール	529m ²
	3号展示室	250m ²	和楽室・洋楽室	39m ²
	4号展示室	366m ²	準備室	18m ²
	収蔵庫	319m ²	映写室	12m ²
	収蔵庫前室	26m ²	機械室	47m ²
	荷解場	120m ²	倉 庫	13m ²
	倉 庫	79m ²	便 所	34m ²
	画廊・準備室	137m ²	ホワイエ	126m ²
	研修室	135m ²	休憩室	56m ²
	事務室	148m ²	便 所	93m ²
	写真室・暗室	58m ²	廊下・階段等	1,114m ²
	機械室	80m ²		

※組織は全て博物館と同様であり、博物館職員全員がそれぞれ対応する職を兼務している。

昭和61年度歳出予算 (美術館)

科 目	予算額(単位千円)	科 目	予算額(単位千円)
(美術館費)		3. 調査研究費	151
1. 管理運営費	46,396	研究費	90
管理費	46,278	調査費	61
会議及び研修費	118	4. 企画展費	5,935
2. 資料整備費	63,619	5. 常設展費	1,904
資料購入費	58,161	6. 普及活動費	134
資料整理費	5,268	7. 施設整備費	5,800
資料収集費	190	計	123,939

事業の実施状況

1. 昭和61年度 常設展（美術館）

第1期 4月1日～6月15日（一部入替）

第2期 6月19日～10月19日

第3期 11月27日～3月10日

〃 3月12日～4月5日（新収蔵品展）

I 彫塑 古賀忠雄（1号A展示室）

芸術院会員の故古賀忠雄の作品を展示。

：マドリッドの女・花売り・二人の女・かんざし・愛と平和・伸びる・鮭・草原を行く・練磨・思い・春日・寸暇・流れに立つ・鶴・童・子守り・寒・うさぎ・朝・春うらら・鶏・間行動美術協会員で現代彫刻家故中島快彦の作品を紹介。（1号B展示室）

：そしてひと

II 現代の工芸（1号B展示室）

佐賀県を代表する陶芸家の作品を展示。

中里無庵：唐津奥高麗茶碗・叩き朝鮮唐津耳付水指・叩き朝鮮唐津壺

12代今泉今右衛門：色鍋島更紗文八角大鉢

12代酒井田柿右衛門：濁手色絵草花文蓋物・濁手色絵草花文食籠・色絵花鳥図瓶

〈第1期〉昭和60年度 新収蔵品展

副島太郎：紅彩・瑠璃色器・夜明け（ガラス）

吉島義子：鍋島段通蟹牡丹文・鍋島段通蔓牡丹文

〈第2期〉

城 秀男：染色 開放・染色 幽遠

松本佩山：五彩布目靈獸文大皿・釉象嵌牡丹図皿・釉裏紅金彩鯉図皿

〈第3期〉

相島正彦：佐賀錦帯「彩光」、佐賀錦三ツ折バッグ「暁」「菱」「流水」

〈新収蔵品展〉

鈴田照次：型絵染着物 南の花文

城 秀男：染色 山暉・遠望・回昔壯姿・山麓

小川泰彦：染色 有明回帰・染色屏風 有明

III 近代・現代美術

〈第1期〉

— 2号展示室 —

百武兼行：馬車のいる風景・耕作・バーナード城下絵・老婦人像・タンパリンを持つ少女・マンドリンを持つ少女

小代為重：少女・チームズ河畔

久米桂一郎：加茂川の新緑・残曛下絵

岡田三郎助：老人像・西洋婦人像・少年・花野・若き娘の顔・伊豆山・富士山・婦人半身像

高木背水：鍋島直彬像・永田町馬場・佐賀城鯨の門・クラマールの森

— 3号展示室・新収蔵品展（一部展示替）

吉田進一：戦国を想う

三塙清巳：道化師

久富邦夫：合唱・踊子たち・窓外雨季・有明海への道

中島快彦：バレー2題・バレー3題・作品・無題・E-13

山本民二：春・フローラ・観音・樹下

江口 良：作品E・作品C・とびら・仮説・8月15日の意味

武藤辰平：フランス風景

岡田三郎助：フローレンス風景・チマブエ像（ブロンズ・レリーフ）

北島浅一：裸婦

三根霞郷：白梅・田園の孤橋・溪流の石橋・石溪・樹下遊童・けいとう・若松の丘・初夏・丘陵の若松・雑木林（II）

〈第2期〉

— 2号展示室 —

百武兼行：鍋島直大侯像・馬車のいる風景・耕作・バーナード城下絵・老婦人像・タンパリンを持つ少女・マンドリンを持つ少女

久米桂一郎：加茂川の新緑・残曛下絵

岡田三郎助：西洋婦人像・老人像・富士山・少年像・若き娘の顔・伊豆山・女の顔・庭・大磯風景・冠をつけた女の像

藤島武二：裸婦・風景・台湾娘・蘇州河激戦の跡

— 3号展示室 —

納富 進：竜王峠・切通しの教会・雪景・長崎風景・村落（スペイン）

江口 良：接吻・入江・扉

松本弘二：春雪・滯船・ル・バザール・男鹿の夏・富士山

〈第3期〉

— 2号展示室 —

百武兼行：馬車のいる風景・バーナード城下絵・耕作・老婦人像・マンドリンを持つ少女・タンパリンを持つ少女・ネメアの獅子と闘うヘラクレス

岡田三郎助：老人像・少年・西洋婦人像・花野・若き娘の顔・女の顔・冠をつけた女の像・庭・富士山・伊豆山・フローレンス風景・風景習作

久米桂一郎：加茂川の新緑・残暁下絵
 小代為重：少女・シンガポール・チームズ河畔
 — 3号展示室：海、その造形とイメージ —
 山本芳翠：帆船
 藤島武二：風景
 青木 繁：纖月帰舟・朝日・夕焼けの海

北島浅一：海辺の村・海
 江口 良：消えゆく岩場・入江・隱岐の島
 井手誠一：風景日本海
 池田幸太郎：海
 松本弘二：滞船・男鹿の夏

2. 新収蔵品展（美術館）

会期 昭和62年3月12日～3月31日

会場 3号展示室

出品目録

近代絵画部門

作品名	作家	制作年代
はがくれの里	深川善次	昭和60年
呪詛の記録	吉田西繕	昭和39年
阿弥陀仏	岩永京吉	昭和40年
パリの街	武藤辰平	昭和5年～9年
薔薇	武藤辰平	昭和5年～9年
阿蘇風景	武藤辰平	昭和5年～9年
サークスの二人	三塙清巳	昭和59年
戦国を想う	吉田進一	昭和60年
椅子に凭る	石本秀雄	昭和34年

作品名	作家	寄贈者	制作年代
毘沙門天	深川善次	川副町・深川 善次	昭和60年
舟型	吉田西繕	佐賀市・吉田 西繕	昭和44年
牡蠣を打つ人	岩永京吉	鹿島市・岩永 京吉	昭和55年
樹下	三塙清巳	東京都・三塙 清巳	昭和60年
ローマの公園	御厨純一	東京都・中原 大昌	昭和2年
奥日光	御厨純一	東京都・中原 大昌	昭和15年
自画像	吉田進一	川副町・吉田 進一	昭和24年
窓辺	吉田進一	川副町・吉田 進一	昭和37年
簞笥と兜	吉田進一	川副町・吉田 進一	昭和44年
鶴首と兜	吉田進一	川副町・吉田 進一	昭和51年
戦国を想う	吉田進一	佐賀市・中野 良次	昭和60年
焚火	石本秀雄	佐賀市・石本 タキ	昭和16年

工芸部門

作品名	作家	制作年代
染色回昔壮姿	城秀男	昭和61年
染色山麗	城秀男	昭和59年
染色有明	小川泰彦	昭和54年
型絵染着物 南の花文	鈴田照次	昭和39年

作品名	作家	寄贈者	制作年代
染色山暉	城秀男	佐賀市・城秀男	昭和57年
染色遠望	城秀男	佐賀市・城秀男	昭和55年
染色有明回帰	小川泰彦	佐賀市・小川泰彦	昭和60年

3. 企画展

昭和61年度佐賀県立美術館特別企画展

北島浅一・御厨純一展

主催	佐賀県・佐賀県教育委員会・佐賀県立美術館
会期	昭和61年9月27日(土)～10月19日(日)
会場	佐賀県立美術館 2号・3号・4号展示室
観覧料	大人 大・高生 中・小生
	個人 500円 250円 150円
	団体 (400円) (150円) (100円)

展示概要

大正から昭和にかけて、日本の美術界は大きな潮流の渦の中にあった。この時代、西欧からの新思潮の流入とそれにともなう若い芸術家たちの活発な制作活動、美術団体の結成と分裂が見られた。

こうした中、官設展を中心とした日本のアカデミズムの形成と維持のために多くの画家たちが集まり、美術界の大勢となっていた。

佐賀を故郷とし、東京で生涯を閉じた北島浅一、御厨純一はこうした一翼を担った官設展系の画家である。約110点にのぼる両名の展示資料は、その作風が平穏ながらもたがいに個性を競い合う一面を見せており、当時の時代的特性を顕著に現わしていた。

出品一覧

油彩画	作品名	制作年	寸法(cm)たて×よこ	所蔵
北島浅一	少女(物思い)	1904(明治37)	42.7×54.0	佐賀相互銀行
	少女	1904(明治37)頃	54.5×46.5	佐賀県立美術館
	石炭運	1912(明治45)	117.0×91.0	東京芸術大学
	自画像	1912(明治45)	60.5×45.5	東京芸術大学
	戦友	1915(大正4)	91.0×116.8	牛津町役場
	藤に草花図		(各)161.5×92.3	佐賀県立美術館
	海辺の村	1916(大正5)頃	90.5×72.5	佐賀県立美術館
	婦人像	1919(大正8)	80.4×65.2	佐賀県立美術館
	坐せる裸婦	(滯欧作)	72.6×59.4	佐賀県立美術館
	老人像	(滯欧作)	53.0×44.5	
	肘かけ椅子の裸婦	(滯欧作)	80.7×65.5	
	坐せる裸婦	(滯欧作)	80.6×53.2	佐賀県立美術館
	アトリエの裸婦	(滯欧作)	58.2×50.5	佐賀県立美術館
	アトリエの裸婦	(滯欧作)	59.7×50.0	佐賀県建設業協会
	ポーズする裸婦	(滯欧作)	60.0×50.0	
	庭	(滯欧作)	45.6×61.0	
	中庭	(滯欧作)	31.7×40.5	
	フランスの子供	(滯欧作)	32.0×41.0	
	フローレンスの公園	(滯欧作)	31.5×34.7	
	コロセウム	(滯欧作)	35.0×32.0	
	アッシジの寺	(滯欧作)	35.0×32.0	
	ヨット(ヴェネチア)	(滯欧作)	31.9×34.8	
	窓辺から	(滯欧作)	46.0×53.5	



会場風景

油彩画	作 品 名	制 作 年	寸法(高)たて×よこ	所	蔵
北島浅一	24 赤い本を持つ裸婦	(滞欧作)	59.0×50.0		
	25 ショールの女	(滞欧作)	53.3×45.7		
	26 路上	(滞欧作)	45.0×53.0	佐賀県立小城高等学校	
	27 テラスの二人の女	(滞欧作)	63.7×57.6		
	28 カフェの女	(滞欧作)	65.3×53.2		
	29 鏡の前	(滞欧作)	80.4×51.5		
	30 三人の女	(滞欧作)	116.7×91.0		
	31 婦人像	(滞欧作)	33.2×24.5		
	32 女の顔	(滞欧作)	41.0×32.6		
	33 女の顔	1921 (大正10)	33.0×23.2	佐賀県立美術館	
	34 マドモアゼル	(滞欧作)	41.0×32.0		
	35 マルセイユの女	(滞欧作)	41.0×32.0		
	36 パリーの踊り子	1922 (大正11)	119.0×101.0	佐賀県立美術館	
	37 バイプをくわえた自画像	大正末頃	32.5×23.5		
	38 女の坐像	大正末頃	38.0×45.5	佐賀県立小城高等学校	
	39 初夏		65.2×53.0		
	40 秋木立		45.3×37.7		
	41 静物 (バラ)	1926 (大正15)	45.5×38.0		
	42 母の像	昭和初期	61.0×45.5		
	43 裸婦	1926 (大正15) 頃	100.0×80.6		
	44 裸婦	1927 (昭和2)	72.5×60.8		
	45 懇い		72.5×61.0	佐賀県立美術館	
	46 静物		45.7×53.0	佐賀県立美術館	
	47 画家の妹	1929 (昭和4)	80.7×100.0	佐賀県立美術館	
	48 画家の子供	1928-29 (昭和3-4)	40.9×31.5		
	49 画家の子供		32.0×22.0		
	50 自画像	昭和初期	33.5×24.0		
	51 母と子	1930 (昭和5)	89.0×98.8		
	52 画家の子供		45.7×38.0		
	53 雪景	昭和初期	38.0×45.5		
	54 裸婦		60.6×72.7	佐賀県立美術館	
	55 裸婦 (習作)	1934 (昭和9) 頃	45.2×53.0		
	56 アトリエの裸婦	1935 (昭和10) 頃	72.8×60.8		
	57 南海公園	1935 (昭和10) 頃	38.0×45.0		
	58 天女		37.5×71.3		
	59 山並遠望		45.6×53.2	佐賀県立美術館	
	60 荒磯	1935 (昭和10) 頃	21.8×27.0		
	61 雉子	1938 (昭和13)	80.5×52.7		
	62 奥多摩の春	1940-41 (昭和15-16)	24.0×40.0	佐賀県立美術館	
	63 梅	1940-41 (昭和15-16)	53.4×65.3	佐賀県立美術館	
	64 伊万里風景		45.4×53.0		
	65 甲斐駒ヶ岳	1941 (昭和16) 頃	60.3×72.5		
	66 身延山御来光		21.7×27.0		
	67 戦友	1943 (昭和18)	72.5×90.8	佐賀県立美術館	
	68 日田風景	1946 (昭和21) 頃	31.8×40.6		
	69 渋温泉	1947 (昭和22)	22.5×30.3		
御厨純一	1 凝議	1912 (明治45)	131.0×162.0	東京芸術大女子	
	2 自画像	1912 (明治45)	60.5×45.5	東京芸術大学	
	3 物思い	1913 (大正2)	79.8×60.6		
	4 木陰	1913 (大正2)	65.4×80.5	佐賀県立美術館	
	5 婦人像		60.8×45.5	佐賀県立美術館	
	6 絵のある自画像	1916 (大正5)	60.8×45.7		

油彩画	作 品 名	制 作 年	寸法(cm)たて×よこ	所 �藏
御厨純一	7 裸婦と向日葵		116.6×91.3	佐賀県立美術館
	8 髪を梳く	1918(大正7)	91.0×117.2	佐賀県立美術館
	9 自画像	1919(大正8)	60.6×45.8	
	10 自画像		65.0×80.0	佐賀県立美術館
	11 キセルを持つ老漁夫	1920(大正9)	91.0×73.0	佐賀県立美術館
	12 幼女	1921(大正10)	43.2×36.1	
	13 エトナ火山	1926(大正15)	15.8×22.8	
	14 街角	1926(大正15)	21.4×26.4	
	15 コンコルド広場	(滞欧作)	45.9×54.8	栄城会(佐賀西高同窓会)
	16 アンバリード	(滞欧作)	45.4×53.0	
	17 牛のいる風景	1926(大正15)	45.5×53.0	
	18 モレーの運河	1926(大正15)	45.7×53.0	
	19 モレーの秋	1926(大正15)	65.3×81.0	佐賀県立美術館
	20 ガンにて	1927(昭和2)	45.5×53.0	
	21 ムードンの丘より	1927(昭和2)	45.5×53.2	
	22 風景	1928(昭和3)	91.1×72.8	
	23 街並	1928(昭和3)	73.3×92.2	
	24 伽藍	1928(昭和3)	91.1×72.8	
	25 パリ、街の壁	1928(昭和3)	53.0×45.6	
	26 首飾りをつけた裸婦	1928(昭和3)	65.4×53.1	佐賀県立美術館
	27 裸婦と水差し	1928(昭和3)	73.1×60.8	佐賀県立美術館
	28 鏡を持つ裸婦	1928(昭和3)	73.0×61.0	佐賀県立美術館
	29 黒衣の婦人	(滞欧作)	65.0×50.5	
	30 ロワール橋畔	1928(昭和3)	32.5×53.0	
	31 ブーローニュの森	1928(昭和3)	33.1×55.0	
	32 菊花	1929(昭和4)	81.2×81.2	
	33 横たわる裸婦	1930(昭和5)	97.4×130.3	佐賀県立美術館
	34 アトリエのモデル		45.5×38.1	佐賀県立美術館
	35 雲仙	1931(昭和6)	26.6×34.5	
	36 天の橋立	1934(昭和9)	26.3×34.4	
	37 天の橋立	1934(昭和9)	45.5×53.0	
	38 菊花	1935(昭和10)	59.8×72.7	
	39 雨の芦ノ湖	1937(昭和12)	27.2×40.7	
	40 初春の富士	1941(昭和16)	72.9×91.3	
	41 山中湖畔	1941(昭和16)	33.0×45.3	
	42 特別攻撃隊敷島隊発進図(下絵)	1945(昭和20)	35.5×44.5	
	43 ニューギニア沖海戦図(下絵)		32.3×40.0	
	44 川上風景	1946(昭和21)	53.5×46.0	佐賀県立美術館

素 描	作 品 名	制 作 年	寸法(cm)たて×よこ	所 藏
北島浅一	1 北島恵美像	1935-40(昭和10-15)	26.9×23.5	
	2 坐せる婦人(習作)	1835-40(昭和10-15)	30.6×20.0	
	3 横たわる裸婦(習作)	1935-40(昭和10-15)	23.5×26.9	
	4 仰向けの裸婦(習作)	1935-40(昭和10-15)	24.5×28.0	
	5 坐せる裸婦(習作)	1935-40(昭和10-15)	24.5×28.0	
	6 横たわる裸婦(習作)	1935-40(昭和10-15)	23.5×26.9	
御厨純一	7 模写による習作	(滞欧作)	23.0×29.2	
	8 模写による習作	(滞欧作)	23.0×29.2	
	9 模写による習作	(滞欧作)	23.0×29.2	
	10 樹	(滞欧作)	23.0×29.2	
	11 立てる裸婦	(滞欧作)	23.0×29.2	
	12 運ぶ人(習作)	(滞欧作)	23.0×29.2	

4. その他の企画展（美術展）

展覧会名称	主催	会期
第11回九州藍筍会展	九州藍筍会	4/16~4/20
第25回日本現代工芸美術展	現代工芸美術家協会 現代工芸美術家協会九州会・佐賀県立美術館	4/22~4/27
舟一朝仕事展	舟一朝	5/1~5/3
第18回アジア現代美術展	佐賀県、佐賀県教育委員会	5/10~5/18
MOA美術館所蔵浮世絵名作展	佐賀新聞社、佐賀県立美術館	5/24~6/15
第69回佐賀美術協会展	佐賀美術協会、佐賀県立美術館	6/21~6/29
第11回書作家協会展	佐賀県書作家協会、佐賀県立美術館	7/2~7/6
第3回佐賀県写真協会展	佐賀県写真協会、佐賀県立美術館	7/9~7/13
第7回二科会佐賀支部展	二科会佐賀支部	7/16~7/20
第17回独立C・S展	佐賀独立C・S	7/23~7/27
第35回綠光会展	綠光会	7/30~8/3
第14回七夕書道展	佐賀県書道教育連盟、佐賀県立美術館	8/6~8/10
第18回佐賀県勤労者美術展	佐賀県、佐賀県立美術館	9/3~9/7
第7回九州新工芸展	九州新工芸家連盟、佐賀県立美術館	9/10~9/15
第36回佐賀県美術展	佐賀県、佐賀県教育委員会、佐賀県立美術館 佐賀県立博物館	11/1~11/9
第10回佐賀県高等学校芸術祭 美術・書道展	佐賀県教育委員会、佐賀県高等学校教育研究会芸術部会 佐賀県高等学校美術連盟、佐賀県高等学校書道教育研究会	11/15~11/24
第27回学童美術展	佐賀県造形教育研究会	11/26~11/30
第7回佐賀新聞学生書道展	佐賀新聞社	12/3~12/7
第28回佐賀大学教育学部 美術・工芸科総合展	佐賀大学教育学部、佐賀県立美術館	12/16~12/21
第9回さが行動展	さが行動美術協会	1/13~1/18
佐賀大学書道部OB展	佐賀大学学生書道研究会	1/21~1/25
佐賀大学教育学部 美術・工芸科卒業制作展	佐賀大学教育学部、佐賀県立美術館	2/18~2/22
第16回九州グラフィック デザイン展	九州文化協会、九州グラフィックデザイン協会、九州各県、 北九州市、福岡市、九州各県教育委員会、佐賀県立美術館	2/25~3/1
金子剛と101人の仲間たち展	金子剛	3/3~3/8
全日写連佐賀県本部展	全日本写真連盟佐賀県本部	3/12~3/15
第19回二紀佐賀グループ展	二紀佐賀グループ	3/25~3/29

会 場	展 示 概 要
美術館 4 号	かな書道
美術館 3・4 号	陶磁器・染織・鍛彫金・人形など約120点
美術館 4 号	ロープと音を使った展示
美術館 4 号	アジア13か国及び日本の中堅作家の作品
美術館 2・3・4 号	MOA 美術館所蔵の浮世絵版画約240点
美術館 2・3・4 号	佐賀美術協会会員・会友の作品を中心に日本画・洋画・彫刻・工芸等の作品
美術館 4 号	県下の書作家協会会員及び一般公募の書道展
美術館 4 号	佐賀県写真協会会員による写真約200点
美術館 4 号	二科会佐賀支部会員による絵画・デザイン・写真
美術館 4 号	独立美術協会佐賀支部員の平面作品約40点
美術館 4 号	緑光会会員の油彩を中心とした作品約80点及び緑光会親子スケッチ会優秀作品約100点
美術館 4 号	幼年・小学校・中学校及び高校・一般の部の書作品約800点
美術館 4 号	絵画・写真・書・工芸約200点
美術館 4 号	九州各県より出品された工芸作品約120点
美術館 2・3・4 号	日本画・洋画・彫塑・工芸・書・写真・デザイン約450点
美術館 2・3・4 号	県内高校生の作品、美術約300点、書道約200点
美術館 4 号	県内生徒の絵画・デザイン・クロッキーの特選作800点
美術館 4 号	県内の児童・生徒を対象にした書作品
美術館 4 号	日本画・洋画・デザイン・彫塑・染織・窯芸・金工・木工
美術館 4 号	絵画・彫刻
美術館 4 号	書約80点
美術館 4 号	美術・工芸約70点
美術館 4 号	九州グラフィックデザイン協会会員等の作品150点
美術館 4 号	油彩画
美術館 4 号	写真約150点
美術館 4 号	油彩約40点

5. 昭和61年度 美術館観覧状況調べ

展 覧 会 名	個 人			團 体		
	大 人	大 高	中 小	大 人	大 高	中 小
第11回 九州藍甸会展	325	50	20			
第25回 日本現代工芸美術展	844	64		23	111	
舟一朝仕事展	69	17				
第18回 アジア現代美術展	460	90	49			634
MOA美術館所蔵浮世絵名作展	11,515	552	1,293	1,966	3,630	2,113
第69回 佐賀美術協会展	2,162	243	334		34	147
第11回 書作家協会展	1,211	178	52			
第3回 写真協会展	823	194	42			
第7回 二科会佐賀支部展	437	45	61			/
独立C・S展	477	95	108			
第35回 緑光会展	542	75	256			
第14回 七夕書道展	604	16	558			
第18回 佐賀県勤労者美術展	1,029	42	121	167	89	393
九州新工芸展	1,145	27	170		100	40
北島浅一・御厨純一展	1,081	59	54	138	102	291
第36回 佐賀県美術展	4,157	303	704	439	595	661
第10回 佐賀県高等学校芸術祭	1,101	2,047	248		40	
第27回 佐賀県学童美術展	1,308	51	725	14	114	303
第7回 佐賀新聞学生書道展	367	20	256			
第18回 佐賀大学教育学部総合展	420	248	63			
さが行動展	695	146	143			
佐賀大学書道部OB展	205	56	35			
佐賀大学教育学部卒業制作展	329	182	10			
第16回 九州グラフィックデザイン展	353	111	54			
金子剛と101人の仲間たち展	1,281	248	94	53	44	44
全日本写真連盟佐賀県本部展	413	16	26			
二紀佐賀グループ展	393	61	54			
計	33,746	5,236	5,530	2,800	4,859	4,626

6. 普及活動

(1) 資料の刊行

館報・年報・調査研究書 博物館の各刊行物と合同で刊行(第18頁を参照)

図録 「北島浅一・御厨純一」展図録 美術館特別企画展に伴い刊行されたもので、カラー42頁に作品42点、白黒66頁に作品71点、論考、目録など計160頁で構成。

(2) 研究講座

当館学芸員が実施した講座開催状況は次の通りである。

年月日	演題	氏名	聴講者数
61.5.27	MOA美術館所蔵浮世絵名作展	福井尚寿	120名
61.9.30	北島浅一・御厨純一展	松本誠一	85名

(3) 実技講座(石膏デッサン教室)

講師 牛塚和男氏(佐賀大学講師)

会期 5日間

会場 美術館研修室

受講者 25名

観覧料免除			招待者	優待者	合計	開館日数	一日平均	期間
大人	大高	中小						
					395	5	79	4/16~4/20
			28		1,070	6	178	4/22~4/27
					86	3	28	5/1~5/3
			199		1,432	8	179	5/10~5/18
			7,515		28,584	20	1,429	5/24~6/15
					2,920	8	365	6/21~6/29
					1,441	5	288	7/2~7/6
					1,059	5	211	7/9~7/13
					543	5	108	7/16~7/20
					680	5	136	7/23~7/27
					873	5	174	7/30~8/3
					1,178	5	235	8/6~8/10
					1,841	5	368	9/3~9/7
					1,482	6	247	9/10~9/15
			663		2,388	20	119	9/27~10/19
			2,159		9,018	8	1,127	11/1~11/9
					3,436	9	382	11/15~11/24
					2,515	5	503	11/26~11/30
					643	5	128	12/3~12/7
					731	6	121	12/16~12/21
					984	5	197	1/13~1/18
			2		298	5	60	1/21~1/25
					521	5	104	2/18~2/22
					518	5	103	2/25~3/1
					1,764	6	294	3/3~3/8
					455	4	113	3/12~3/15
					508	5	101	3/25~3/29
			10,566		67,363	179	376	

7. 資料調査

松尾忠次氏調査 佐賀市松原3-4-11

佐賀在住の松尾忠次（1909—）は、東京美術学校で彫金を学び、昭和26年以降日展出品、入選を続けている在野作家である。自身の語る略歴、創作の気概等を聴取調査した。

石田英一作品調査 佐賀市松原3-4-11

東京美術学校鍛金科教授石田英一（1876—1960）は、日展系作家として東京を創作の場として活動するが、石田家の出身地である佐賀にも作品が残され

ている。昭和初期の作風とおもわれる「鍛造銅製布袋置物」創作当時の作家の横顔について、同時期に彫金科在籍中の松尾忠次氏にたずねた。

伊賀流組紐伊藤百合子氏調査 唐津市湊町

鹿島鍋島家資料のうち「唐津翫葉紋蒔絵八角貝桶」の飾房紐の破損修復の件で訪問、組紐の道具類、技法の違い等について教えを受けた。

企画展資料調査

北島浅一・御厨純一展の実施に伴い、両作家の作品を広範囲に調査した。調査先32か所。

8. ホール・画廊・研修室催しもの

美術館ホール利用状況

月別	利用団体数	延入場者数	音 楽	演 劇	洋舞・邦舞	映 写 会	そ の 他
4	13	4,037人	12				1
5	15	5,623	7	1		1	6
6	10	4,143	5	1	1	1	2
7	11	5,672	7	1	1	2	
8	18	4,860	12	2		3	/ 1
9	14	4,225	8		1	1	4
10	13	5,415	5	4	1	1	2
11	13	7,543	5	4		1	3
12	14	4,551	12		1		1
1	12	2,585	8		1	1	2
2	10	5,073	4	2	2		2
3	13	4,485	8		1	2	2
計	156	58,212	93	15	9	13	26

画廊・研修室利用状況

月別	展 覧 会			そ の 他
	利用団体数	延会期日数	入 場 者 数	
4	2	9	649	1. 講 演 会 2回
5	4	18	1,566	2. 研 究 会 9回(老人大学・デッサン教室)
6	1	5	810	3. 展覧会準備・控室 45回
7	1	5	170	4. ホール催物控室 13回
8	4	20	1,424	
9	5	23	4,685	
10	2	10	550	
11	4	22	1,896	
12	3	14	1,280	
1	4	22	1,926	
2	5	21	3,495	
3	5	27	2,079	
計	40	196	20,530	計 69回

資料の概要

1. 昭和61年度 購入資料

(1)美術資料

資料名	作者	数量	品質・形状	制作年
奥多摩の春	北島浅一	1	油彩・キャンバス 24×40cm	
戦国を想う	吉田進一	1	油彩・キャンバス 162×130cm	昭和60年 (1985)
サークスの二人	三塙清巳	1	油彩・キャンバス 195×131cm	昭和59年 (1984)
群	中島快彦	1	セメント 高さ 147.0cm	昭和27年 (1952)
孤獨	中島快彦	1	セメント 高さ 106.0cm	昭和29年 (1954)
客中示人七言絶句二行書	副島種臣	1	絹本・掛幅装 217.0×40.9cm	明治19年 (1877)
はがくれの里	深川善次	1	油彩・キャンバス 162.0×130.2cm	昭和60年 (1985)
呪詛の記録	吉田西緒	1	油彩・板 161.8×129.7cm	昭和39年 (1964)
阿弥陀仏	岩永京吉	1	岩絵具・紙 221.0×160.0cm	昭和40年 (1965)
パリの街	武藤辰平	1	油彩・キャンバス 45.5×61.0cm	
薔薇	武藤辰平	1	油彩・キャンバス 53.0×45.5cm	
ダリヤ	武藤辰平	1	油彩・キャンバス 60.3×72.5cm	
阿蘇風景	武藤辰平	1	油彩・キャンバス 72.7×100.0cm	
椅子に凭る	石本秀雄	1	油彩・キャンバス 145.0×97.0cm	昭和34年 (1959)
噴煙の桜島	石本秀雄	1	油彩・キャンバス 130.0×162.0cm	昭和55年 (1980)
矢調べ	岡田三郎助	1	油彩・キャンバス 72.5×105.0cm	明治26年 (1893)

(2)工芸資料

資料名	作者	数量	品質・形状	制作年
有明	小川泰彦	1	木綿地・二曲屏風・染色 177.7×157.5cm	昭和54年 (1979)
回昔壮姿	城秀男	1	木綿地・染色パネル 90.4×135.3cm	昭和61年 (1986)
山麓	城秀男	1	木綿地・染色パネル 134.8×86.5cm	昭和59年 (1984)
型絵染着物 南の花文	鈴田照次	1	絹地・着物 袴67、着丈169、袖丈59cm	昭和39年 (1964)

2. 昭和61年度 寄贈資料

(1)美術資料

資料名	作者	数量	品質・形状	寄贈者
胸像	古賀忠雄	1	ブロンズ 73.0cm	東京都練馬区桜台 古賀晟
胸像	古賀忠雄	18	石膏 高さ 32.5~77.0cm	〃
胸像レリーフ	古賀忠雄	1	石膏 76.0×71.0cm	〃
馬と人レリーフ	古賀忠雄	2	石膏 80.5×123.0 69.0×63.5cm	〃
製作工程資料	古賀忠雄	7	石膏 木製ヘラ等	〃
ローマの公園	御厨純一	1	油彩・キャンバス 32.0×41.0cm	東京都武藏野市吉祥寺南町 中原大昌
奥日光	御厨純一	1	油彩・キャンバス 33.0×45.0cm	〃
室内小憩	石本秀雄	1	油彩・キャンバス 145.7×112.0cm	佐賀市中ノ小路 石本タキ
赤ちゃんを背負う女	石本秀雄	1	油彩・キャンバス 117.0×80.5cm	〃
秋	石本秀雄	1	油彩・キャンバス 181.4×227.0cm	〃

資料名	作者	数量	品質・形状	寄贈者
ユーカリ樹の庭	石本秀雄	1	油彩・カンバス 116.9×80.8cm	〃
麦秋	石本秀雄	1	油彩・カンバス 116.7×91.0cm	〃
市の人々	石本秀雄	1	油彩・カンバス 145.3×112.0cm	〃
炭鉱の朝	石本秀雄	1	油彩・カンバス 91.0×116.5cm	〃
焚火	石本秀雄	1	油彩・カンバス 162.0×131.0cm	〃
静物	石本秀雄	1	油彩・カンバス 91.0×116.7cm	〃
少年の頃	石本秀雄	1	油彩・カンバス 91.0×116.6cm	〃
庭と少女	石本秀雄	1	油彩・カンバス 116.8×91.0cm	〃
画室	石本秀雄	1	油彩・カンバス 145.3×112.0cm	〃
傘を乾す画室	石本秀雄	1	油彩・カンバス 91.0×116.5cm	〃
椅子に凭るA子	石本秀雄	1	油彩・カンバス 115.5×90.4cm	〃
裸婦を描く	石本秀雄	1	油彩・カンバス 117.0×90.5cm	〃
画学生の像	石本秀雄	1	油彩・カンバス 116.5×90.6cm	〃
晩夏	石本秀雄	1	油彩・カンバス 145.5×112.0cm	〃
首飾りの裸婦	石本秀雄	1	油彩・カンバス 116.8×91.0cm	〃
外出用意	石本秀雄	1	油彩・カンバス 116.6×91.0cm	〃
裸婦	石本秀雄	1	油彩・カンバス 130.2×97.0cm	〃
裸婦とゴムの木	石本秀雄	1	油彩・カンバス 145.0×97.0cm	〃
休みのポーズ	石本秀雄	1	油彩・カンバス 116.8×90.7cm	〃
はなし	石本秀雄	1	油彩・カンバス 130.3×97.2cm	〃
女二人	石本秀雄	1	油彩・カンバス 145.5×112.2cm	〃
臼杵天部	石本秀雄	1	油彩・カンバス 130.2×97.2cm	〃
臼杵勢至	石本秀雄	1	油彩・カンバス 145.3×97.0cm	〃
港の町	石本秀雄	1	油彩・カンバス 145.5×112.0cm	〃
新緑オランダ坂の家	石本秀雄	1	油彩・カンバス 162.0×130.0cm	〃
桜島山	石本秀雄	1	油彩・カンバス 162.0×112.0cm	〃
岩谷の早春	石本秀雄	1	油彩・カンバス 145.3×112.0cm	〃
菜の花	石本秀雄	1	油彩・カンバス 72.5×60.5cm	〃
自画像	吉田進一	1	油彩・カンバス 45.6×38.1cm	佐賀郡川副町犬井道 吉田進一
窓辺	吉田進一	1	油彩・カンバス 130.2×97.0cm	〃
簾笥と兜	吉田進一	1	油彩・カンバス 162.3×112.5cm	〃
鶴首と兜	吉田進一	1	油彩・カンバス 162.0×112.0cm	〃
道化師たち	三塙清巳	1	油彩・カンバス 162.0×131.0cm	東京都東村山市栄町 三塙清巳
サーカスの人たち	三塙清巳	1	油彩・カンバス 194.0×131.0cm	〃
樹下	三塙清巳	1	油彩・カンバス 145.0×112.0cm	〃
箱根	三塙清巳	1	油彩・カンバス 60.6×73.0cm	〃
戦国を想う	吉田進一	1	油彩・カンバス 162.0×130.0cm	佐賀市水ヶ江2丁目 中野良次
牡蠣を打つ人	岩永京吉	1	岩絵具・紙 130.5×89.5cm	鹿島市大手 岩永京吉
舟型	吉田西縕	1	油彩・カンバス 116.5×91.0cm	佐賀市神野西 吉田西縕
毘沙門天	深川善次	1	油彩・カンバス 130.5×97.0cm	佐賀郡川副町南里 深川善次

(2)工芸資料

資料名	作者	数量	品質・形状	寄贈者
現代・想	城秀男	1	染色屏風 木綿地 174.8×175.6cm	佐賀市西与賀町厘外 城秀男
幽遠	城秀男	1	染色 木綿(紬地) 162.0×86.9cm	〃

資料名	作者	数量	品質・形状	寄贈者
山暉	城秀男	1	染色木綿地 135.2×90.0cm	//
遠望	城秀男	1	染色木綿地 80.5×100.3cm	//
有明回帰	小川泰彦	1	染色木綿地 117.0×80.4cm	佐賀市本庄町本庄 小川泰彦
佐賀錦雷紋	相島正彦	1	絹糸・和紙・額面 35.5×25.2cm	福岡市東区奈多 相島正彦
佐賀錦大黄河	相島正彦	1	絹糸・和紙・額面 23.2×25.5cm	//

3. 昭和61年度 管理換えによる受入資料

(1)美術資料

資料名	作者	数量	品質・形状	制作年
1986-II	下平武敏	1	油彩・カンバス 130.5×162.0cm	昭和61年 (1986)
廬縫の詩	羽室彩雲	1	紙本・墨書 228.0×52.0cm	昭和61年 (1986)
崩える季節	井上富子	1	モノクロ写真 48.5×80.5cm	昭和61年 (1986)
聖者が街にやって来る	小島淳二	1	紙・着彩 103×73cm	昭和61年 (1986)

(2)工芸資料

資料名	作者	数量	品質・形状	制作年
衍(エン)	西山ちはる	1	綿・麻・簾のタピストリー 139×98cm	昭和61年 (1986)

4. 資料の貸出状況

資料名	作者名など	貸出先	貸出・返納	目的(会場)
画室内・小代為重像	黒田清輝	三重県立美術館他3	昭和61年4月24日 昭和61年9月18日	黒田清輝展 (三重県立美術館他3)
衣を与う (佐賀大学寄託)	海老原喜之助	熊本県立美術館他2	昭和61年5月2日 昭和61年8月9日	海老原喜之助展 (熊本県立美術館他2)
初秋	宮地亨	宮地亨	昭和61年7月8日 昭和61年7月15日	第4回書道展 (佐賀玉屋ローズギャラリー)
花野(寄託)	岡田三郎助	静岡県立美術館	昭和61年8月5日 昭和61年9月29日	近代日本の洋画と西洋 (静岡県立美術館)
婦人半身像・髪を梳る裸婦等4点	岡田三郎助他	奈良県立美術館	昭和61年10月1日 昭和61年11月18日	素描芸術100年の歩み展 (奈良県立美術館)
自画像(草)	山口亮一	佐賀市立芙蓉中学校	昭和61年10月13日 昭和61年10月15日	公開授業のため (佐賀市立芙蓉中学校)
鶴舎の朝	古賀忠雄	読売新聞社	昭和61年10月31日 昭和61年11月26日	日展回顧展 (東京・銀座松屋)
油彩画「1986-II」	下平武敏	下平武敏	昭和62年1月6日	第30回安井賞展 (西武美術館)
宗白無庵先生像	立石春美	読売新聞社	昭和62年2月21日	人間国宝中里無庵とその周辺展 (福岡・天神岩田屋ほか)

佐賀県博物館及び美術館協議会

委員名簿（定員15名）

区分	氏名	役職（現職名）	〒	住所
社会関係者 会学校教育者	山下達雄	佐賀県公民館連合会会长	840	佐賀市愛敬町4-10
	中村司	佐賀県高等学校長協会代表	841	鳥栖市古野町561の2
	平安寺扶	佐賀県小・中学校長会代表	845-23	小城郡小城町松尾3965
学識経験者	佐藤久子	佐賀県婦人連絡協議会会长	849-41	西松浦郡西有田町山谷乙231
	大塚巖	佐賀県文化団体協議会会长	840	佐賀市本庄町本庄宮前1137-23
	栗山重司	佐賀県理科教育振興会代表	840-03	佐賀市金立町薬師丸981
	三好不二雄	佐賀大学名誉教授	840	佐賀市赤松町11-11
	石本秀雄	佐賀大学名誉教授 日展評議員	840	佐賀市中ノ小路9-29
	原岡一馬	佐賀大学教育学部教授	816	福岡県大野城市平野台1-4-23
	平田寛	九州大学文学部教授	811-34	宗像市日の里5-3-31
	岩永京吉	佐賀県美術協会会长 佐賀大学名誉教授	849-13	鹿島市大手565-1
	岡崎敬	九州大学文学部教授	813	福岡市東区香住ヶ丘3-20-15
	池田貞美	佐賀大学教育学部教授	849-02	佐賀市嘉瀬町十五1354
	中江八束	佐賀県議会議員	849-16	藤津郡太良町糸岐1435
	稻田繁生	佐賀新聞社編集局長	840	佐賀市北川副町光法1499-16

(任期 昭和59.7.25~61.7.24)

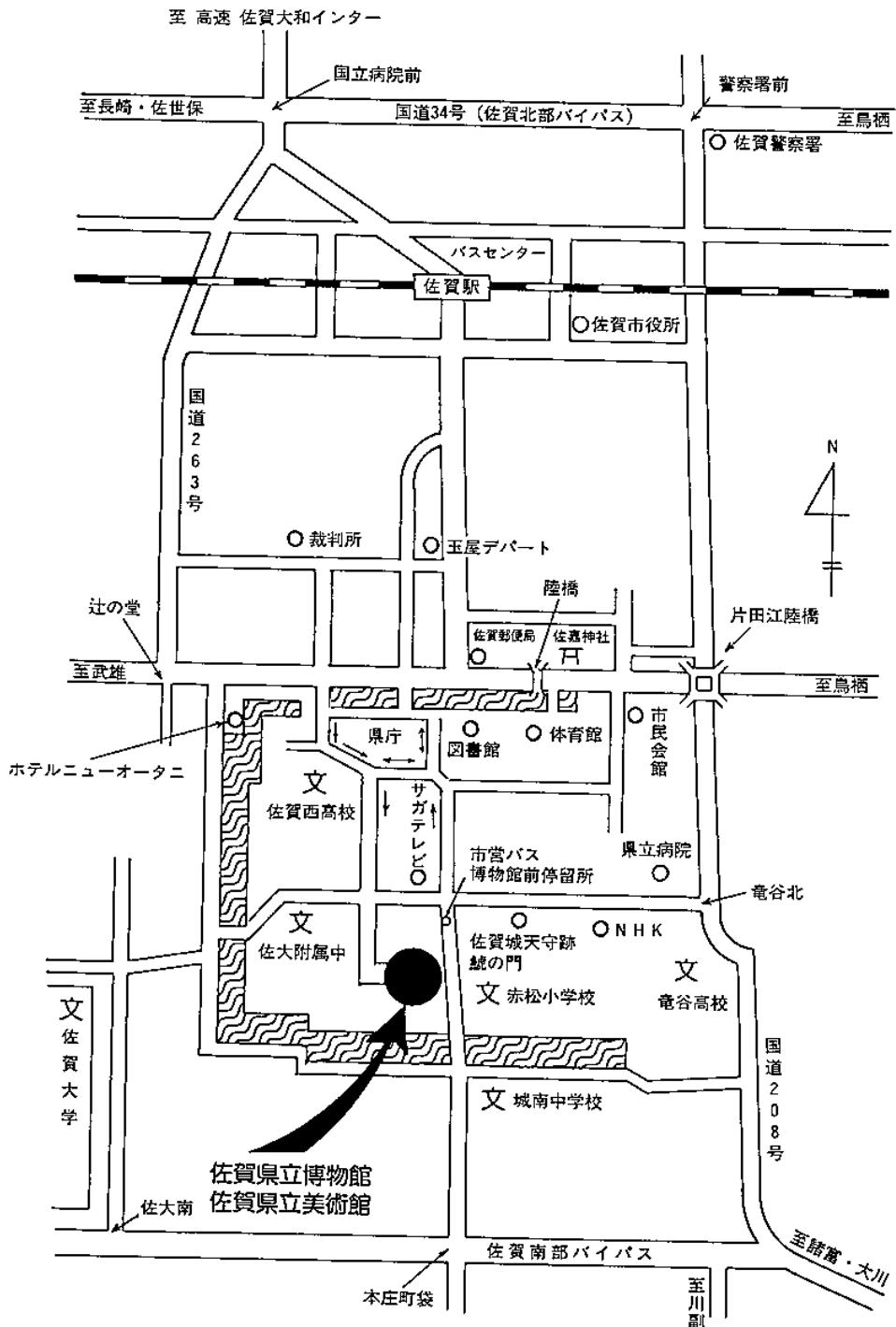
佐賀県博物館及び美術館協議会開催状況

昭和61年8月30日 議題 (1)昭和61年度事業計画案について
(2)昭和61年度予算案について
(3)その他

昭和62年3月19日 議題 (1)昭和62年度事業計画について
(2)昭和62年度予算について
(3)その他

博物館・美術館職員名簿（昭62. 4. 1現在）

	職名	氏名		職名	氏名
館長		大塚正道	学芸課 資料係 企画普及係	学芸課長	小宮陸之
副館長		高島忠平		資料係長	田中裕
副館長		木下一義		主査	宮原香苗
総務課	(課長事務取扱)	木下一義		学芸員	松本誠一
	庶務管理係長	赤坂一憲		学芸員	大隈博文
	主査	中村美沙子		非常勤嘱託	浜野四郎
	主査	古川宣明		専門員 (係長事務取扱)	木下巧
	主事	大島暁夫		主査	藤口健二
	主事	中島恭助		学芸員	福井尚寿
	主事	石井康芳		学芸員	山崎和文
	事務員	坂井卓次			
	事務員	小石武彦			
	技術員	戸川内匠			
	非常勤嘱託	真子昭作			



佐賀駅バスセンターから市営バス博物館前下車、または各バス（昭和・祐徳・市営）で県庁前下車、南へ600m。

佐賀県立博物館 年報 第17号
佐賀県立美術館

発行年月日 昭和 62 年 9 月 1 日

編集発行 佐賀市城内 1 丁目15—23

佐賀県立博物館
佐賀県立美術館

印刷 有限会社 大同印刷